



- 図版(写真) 363点
- 地図 46点
- グラフ・図 147点
(グラフ45+系図18+図50+表34)
- 文字資料 87点
- 2次元コード 23点

詳説日本史

日探705 B5変型判(230mm×174mm) 398頁 予価865円

【編者】

佐藤 信 東京大学名誉教授 高埜 利彦 学習院大学名誉教授
五味 文彦 東京大学名誉教授 鈴木 淳 東京大学教授

【著作者】

老川 慶喜 立教大学名誉教授 村 和明 東京大学准教授
大津 透 東京大学教授 山口 輝臣 東京大学教授
早乙女雅博 東京大学名誉教授 湯川 文彦 お茶の水女子大学准教授
坂上 康俊 九州大学名誉教授 吉田 伸之 東京大学名誉教授
桜井 英治 東京大学教授 渡邊 宏明 海城中学高等学校教諭
設楽 博己 東京大学名誉教授 會田 康範 学習院高等科教諭
高橋 典幸 東京大学教授 太田尾智之 東京都立国立高等学校教諭
沼尻 晃伸 立教大学教授 中家 健 東京都立小石川中等教育学校教諭
牧原 成征 東京大学教授 野崎 雅秀 東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
三枝 暁子 東京大学准教授 株式会社 山川出版社
三谷 芳幸 筑波大学准教授

message



高埜利彦
(たかのとしひこ)

学習院大学名誉教授

「日進月歩」とまでは申しませんが、歴史学や考古学などの研究者の日々の取組によって、日本の歴史像は描き直されてきました。132年の伝統のある学会誌『史学雑誌』の回顧と展望に見るように、膨大な数の研究論文が毎年発表されています。この不断の学問の営みの中から、新しい歴史像が学会の共有財産として認識され、やがて定着するようになると、それが教科書に反映されて、今回のような大きな改訂の機会に、書き直されることになります。

日本の歴史像は、多数の出版社によって書籍などのかたちで社会に伝えられていきます。歴史学は社会と結びつきやすい特色をもっていますが、それは中学・高校生の時に日本史を広く学んだ人たちが、その後も関心を持続していくからだと思います。

高校の教室で生徒たちに日本史の授業を担当する先生方の役割は、歴史学に裏付けられた共通の日本史像を、教科書を通して次の世代に認識してもらうところにあります。教科書の改訂は、現場の先生方に負担を掛けることになります。かつて、教育現場に週1日の研修日があり、教材研究などに余裕の時間をもた頃とは異なり、現在の厳しい環境の中で教材研究に時間を割くことは容易ではないと思いますが、是非、新しくなった『詳説日本史』を活用していただければと思います。

歴史学という基礎の学問から始まり、次世代の歴史認識を形成する高校の現場まで、一貫した流れの最後をしめくくる、高校の先生方に大いなる期待をしています。



鈴木淳
(すずきじゅん)

東京大学教授

新型コロナウイルス感染症の流行にともなう予期せぬ社会の変動によって、人々の暮らしが大きく左右されました。そしてそれへの対応は、国や自治体に頼るだけではなく、自らの責任で考えなくてはならないことが痛感されました。産業の国際競争力も一時の勢いを失い、実業界でも若手に対して、指示を待つだけではなく自ら考える力を強く期待する時代を迎えています。

そのような中で、新たに登場した「日本史探究」という科目では、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。それは、考える力を養うとともに、先人たちが犠牲を払いながら積み重ねてきた貴重な経験を現代の社会に生かす学習であり、それを通じて、改めて歴史を学ぶ意味の大きさを理解することも期待されます。

この教科書は『詳説日本史』の長年の蓄積を生かしながら、「日本史探究」の目標を達成しようとするものです。各時代の特徴を理解するのにふさわしい厳選した史資料を取り上げた「歴史資料と〇〇の展望」、あるいは、本文横や章末の数多くの問いにより、様々なかたちで探究の入り口や手がかりを示すとともに、本文は問題意識をもった学習に対応できる丁寧な叙述となっています。この教科書で、知識を身に付けるだけではなく、歴史に学んで考える力を身に付けてもらいたいと思います。

詳しい内容と豊富な史資料 信頼の教科書

1

各時代・各分野をバランスよく記述、
充実した内容。

- 本文を重視し、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代、政治・外交・経済・文化などの各分野について、網羅的にバランスよく記述しました。
- 歴史的なできごとの背景や因果関係が理解しやすくなるように、論理的な記述を心掛けました。充実した内容で、思考力・判断力・表現力を働かせるための基礎知識を獲得できます。

2

探究活動に取り組みやすい大きな図版、
豊富な史資料。

- 考察を深め、歴史を探究するための史資料を数多く掲載しました。また、教科書の判型を大きくし(A5判→B5変型判)、写真・図版を大きく・見やすく掲載しました。
- 歴史叙述の基礎となる文字資料のほか、当時の様子を推測するための図版・写真や、数値から時代背景を考察できる統計資料などを豊富に取り入れています。
- 「歴史資料と〇〇の展望」では、多様な史資料を取り上げ、生徒が多角的に考察できるよう、工夫しています。

3

時代の特色をつかむ多様な問いかけ。

- 各章の冒頭では導入文と合わせて、その章の学習上の視点となる問いかけを提示し、各章の章末では「まとめ」の問いを設けてその章の学習を振り返り、考察できるようにしています。
- 本文を読む際の着眼点となるように、また様々な角度から歴史を捉えられるように、随所に問い(Q)を設けました。また、史資料に関連した「読みといてみよう」では、解釈・説明・論述をうながす問いかけをしています。

関連教材

授業準備／テスト／評価に

授業／予習・復習に

教師用指導書
授業実践編

→p.24-27

デジタル

教師用指導書
授業実践編
付属データ集

→p.28-31

教師用指導書
研究編

→p.27

準拠ノート
補助教材

→p.32-37

デジタル

デジタル
教科書

→p.66-68

「日本史B」版と「日本史探究」版の対照表

「日本史B」版

「日本史探究」版 青字は章・節・小見出しのタイトル変更など。

章・節	小見出し
1章 日本文化のあけぼの	
第1節 文化の始まり	日本列島と日本人 旧石器時代人の生活 縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰
第2節 農耕社会の成立	弥生文化の成立 弥生人の生活 小国の分立 邪馬台国連合
第3節 古墳とヤマト政権	古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 東アジア諸国との交渉 大陸文化の受容 古墳文化の変化 古墳時代の人びとの生活 古墳の終末 ヤマト政権と政治制度
2章 律令国家の形成	
第1節 飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト政権の発展 飛鳥の朝廷と文化
第2節 律令国家への道	大化改新 律令国家への道 白鳳文化 大宝律令と官僚制 民衆の負担
第3節 平城京の時代	遣唐使 奈良の都平城京 地方官衙と「辺境」 藤原氏の進出と政界の動揺 民衆と土地政策
第4節 天平文化	天平文化と大陸 国史編纂と「万葉集」 国家仏教の展開 天平の美術
第5節 平安王朝の形成	平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変貌 唐風文化と平安仏教 密教芸術
3章 貴族政治と国風文化	
第1節 摂関政治	藤原氏北家の発展 摂関政治 国際関係の変化
第2節 国風文化	国文学の発達 浄土の信仰 国風美術 貴族の生活
第3節 地方政治の展開と武士	受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長 源氏の進出
4章 中世社会の成立	
第1節 院政と平氏の台頭	延久の荘園整理令と荘園公領制 院政の開始 院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 院政期の文化
第2節 鎌倉幕府の成立	源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷

章・節	小見出し	備考
A 原始・古代の日本と東アジア		
(1)黎明期の日本列島と歴史的環境		
1章 日本文化のあけぼの		
第1節 文化の始まり	日本列島と日本人 旧石器時代人の生活 縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰	◀縄文時代や弥生時代の始まりの記述を、C14年代測定などをふまえて変更(パンフレットp.13参照)。
第2節 農耕社会の成立	弥生文化の成立 弥生人の生活 小国の分立 邪馬台国連合	
(2)歴史資料と原始・古代の展望		
①古代社会と海外との交流 ②木簡から古代国家を探る		
(3)古代の国家・社会の展望と画期(歴史の解釈、説明、論述)		
2章 古墳とヤマト政権		
第1節 古墳文化の展開	古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 東アジア諸国との交渉 大陸文化の受容 後期の古墳 古墳時代の人々の生活 ヤマト政権と政治制度 古墳の終末	◀新課程での新ページ。 ◀入れ替え。 ◀入れ替え。
第2節 飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト政権の発展 飛鳥の朝廷と文化	
3章 律令国家の形成		
第1節 律令国家への道	大化改新 天智天皇・天武天皇 律令の成立と「日本」 官僚制 民衆の負担	
第2節 平城京の時代	遣唐使 奈良の都平城京 地方の統治と蝦夷・華人 藤原氏の進出と政界の動揺 民衆と土地政策	
第3節 律令国家の文化	白鳳文化 天平文化と大陸 国史編纂と「万葉集」 国家仏教の展開 天平の美術	◀白鳳文化を移動。
第4節 律令国家の変容	平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変容 唐風文化と平安仏教 密教芸術	
4章 貴族政治の展開		
第1節 摂関政治	藤原氏北家の発展 摂関政治 国際関係の変化	◀「藤原氏北家の発展」は3つの小見出しに分割。
第2節 国風文化	国文学の発達 浄土の信仰 国風美術 貴族の生活	
第3節 地方政治の展開と武士	受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長	◀「源氏の進出」の小見出しと一体化。前九年合戦・後三年合戦は中世へ。
B 中世の日本と世界		
(1)中世への転換と歴史的環境		
5章 院政と武士の躍進		
第1節 院政の始まり	日本列島の大きな変化 延久の荘園整理令と荘園公領制 院政の開始	◀冒頭で、前の時代からの変化の大きな流れを記述。 ◀前九年合戦・後三年合戦は、この小見出しに追加。
第2節 院政と平氏政権	院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 院政期の文化	◀平氏政権のうち日宋貿易や大和田泊の記述はここで扱う。
(2)歴史資料と中世の展望		
絵画から中世社会を探る		
(3)中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)		
6章 武家政権の成立		
第1節 鎌倉幕府の成立	源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷	◀徳子入内、安徳天皇即位の平氏政権の全盛期はここで扱う。

章・節	小見出し
第3節 武士の社会	北条氏の台頭 承久の乱 執権政治 武士の生活 武士の土地支配
第4節 蒙古襲来と幕府の衰退	蒙古襲来 蒙古襲来後の政治 琉球とアイヌの動き 社会の変動 幕府の衰退
第5節 鎌倉文化	鎌倉文化 鎌倉仏教 中世文学のおこり 芸術の新傾向
5章 武家社会の成長	
第1節 室町幕府の成立	鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 琉球と蝦夷ヶ島
第2節 幕府の衰退と庶民の台頭	惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業の発達 商工業の発達
第3節 室町文化	室町文化 南北朝文化 北山文化 東山文化 庶民文芸の流行 文化の地方普及 新仏教の発展
第4節 戦国大名の登場	戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発展と町衆
6章 幕藩体制の確立	
第1節 織豊政権	ヨーロッパ人の東アジア進出 南蛮貿易とキリスト教 織田信長の統一事業 豊臣秀吉の全国統一 検地と刀狩 秀吉の対外政策と朝鮮侵略
第2節 桃山文化	桃山文化 桃山美術 町衆の生活 南蛮文化
第3節 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 禁教と寺社 江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易 朝鮮と琉球・蝦夷地 寛永期の文化
第4節 幕藩社会の構造	身分と社会 村と百姓 町と町人 農業 林業・漁業 手工業・鉱山業 商業
7章 幕藩体制の展開	
第1節 幕政の安定	平和と秩序の確立 元禄時代 正徳の政治
第2節 経済の発展	農業生産の進展 諸産業の発達 交通の整備と発達 貨幣と金融 三都の発展 商業の展開
第3節 元禄文化	元禄文化 元禄期の文学 儒学の興隆 諸学問の発達 元禄美術

章・節	小見出し	備考
第2節 武士の社会	北条氏の台頭 承久の乱 執権政治 武士の生活 武士の土地支配	
第3節 蒙古襲来と幕府の衰退	モンゴル襲来 モンゴル襲来後の政治 琉球とアイヌの動き 社会の変動 幕府の衰退	
第4節 鎌倉文化	鎌倉文化 鎌倉仏教 中世文学のおこり 美術の新傾向	
7章 武家社会の成長		
第1節 室町幕府の成立	鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 琉球と蝦夷ヶ島	
第2節 幕府の衰退と庶民の台頭	惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業の発達 商工業の発達	
第3節 室町文化	文化の融合 動乱期の文化 室町文化の成立 室町文化の展開 庶民文芸の流行 文化の地方普及 新仏教の発展	◀小見出し名を変更(パンフレットp.13参照)。
第4節 戦国大名の登場	戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発展と町衆	
C 近世の日本と世界		
(1)近世への転換と歴史的環境		
8章 近世の幕開け		
第1節 織豊政権	近世への転換 銀の交易と鉄砲伝来 キリスト教と南蛮貿易 織田政権 豊臣秀吉の全国統一 豊臣政権の土地・身分政策 対外政策と侵略戦争	◀冒頭で、前の時代からの変化の大きな流れを記述(パンフレットp.13参照)。
第2節 桃山文化	桃山文化 美術と風俗 芸能の新展開 国際的な文化交流	
(2)歴史資料と近世の展望		
生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化		
(3)近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)		
9章 幕藩体制の成立と展開		
第1節 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 禁教と寺社 江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易 朝鮮と琉球・蝦夷地 寛永期の文化	◀新課程での新ページ。
第2節 幕藩社会の構造	身分と社会 村と百姓 町と町人 農業 林業・漁業 手工業・鉱山業 商業	
第3節 幕政の安定	平和と秩序の確立 元禄時代 正徳の政治	
第4節 経済の発展	農業生産の進展 諸産業の発達 交通の整備と発達 貨幣と金融 三都の発展 商業の展開	
第5節 元禄文化	元禄文化 元禄期の文学 儒学の興隆 諸学問の発達 元禄美術	

「日本史B」版と「日本史探究」版の対照表

Table with 4 columns: Chapter/Section, Sub-section, Comparison/Notes, and Remarks. It maps the structure of 'Japan History B' to 'Japan History Inquiry'.

Table with 4 columns: Chapter/Section, Sub-section, Comparison/Notes, and Remarks. It maps the structure of 'Japan History Inquiry' to 'Japan History B'.

おもな変更箇所の例
●縄文時代や弥生時代の始まりの記述を、C14年代測定などをふまえて変更しました。
●室町文化の記述を変更しました。
●室町時代の文化は、3代将軍足利義満の頃の文化を「北山文化」、8代将軍義政の頃の文化を「東山文化」と呼んで区別することが多い。

目次と配当時間例

目次

各時代(部)が学習指導要領の大項目A~Dに当たります。
各部は学習指導要領の中項目(1)~(3)で構成されています。

A Ⅰ部 原始・古代

(1)	第1章 日本文化のあけぼの	6	4
	1 文化の始まり	6	
	2 農耕社会の成立	13	
(2)	● 歴史資料と原始・古代の展望		4月
	① 古代社会と海外との交流	20	2
	② 木簡から古代国家を探る	22	
	第2章 古墳とヤマト政権		
	1 古墳文化の展開	24	4
	2 飛鳥の朝廷	33	
(3)	第3章 律令国家の形成		5月
	1 律令国家への道	37	6
	2 平城京の時代	41	
	3 律令国家の文化	49	
	4 律令国家の変容	55	
	第4章 貴族政治の展開		
	1 摂関政治	62	4
	2 国風文化	65	
	3 地方政治の展開と武士	69	

B Ⅱ部 中世

第5章 院政と武士の躍進		3
1 院政の始まり	76	
2 院政と平氏政権	79	
● 歴史資料と中世の展望		6月
● 絵画から中世社会を探る	86	2
第6章 武家政権の成立		
1 鎌倉幕府の成立	90	6
2 武士の社会	94	
3 モンゴル襲来と幕府の衰退	99	
4 鎌倉文化	104	
第7章 武家社会の成長		7月
1 室町幕府の成立	110	8
2 幕府の衰退と庶民の台頭	119	
3 室町文化	125	
4 戦国大名の登場	132	

干支、時刻と方位、度量衡のページを設けました。

C Ⅲ部 近世

第8章 近世の幕開け		3
1 織豊政権	138	
2 桃山文化	146	
● 歴史資料と近世の展望		9月
● 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化	150	2
第9章 幕藩体制の成立と展開		
1 幕藩体制の成立	154	11
2 幕藩社会の構造	167	
3 幕政の安定	176	
4 経済の発展	179	
5 元禄文化	187	
第10章 幕藩体制の動揺		11月
1 幕政の改革	192	8
2 宝暦・天明期の文化	198	
3 幕府の衰退と近代への道	203	
4 化政文化	213	
年表	371	
索引	379	
古代の行政区画	表見返し	
干支、時刻と方位、度量衡	表見返し裏	
政党・政派の変遷	裏見返し	

各時代・各分野をバランスよく構成しています。

学習指導要領の中項目(4)は大項目Dの最後に入ります。

D Ⅳ部 近代・現代

第11章 近世から近代へ		3
1 開国と幕末の動乱	220	
2 幕府の滅亡と新政府の発足	227	
● 歴史資料と近代・現代の展望		2
① 五箇条の誓文と国是	232	
② 貿易の変遷からみる日本の近代・現代	234	
第12章 近代国家の成立		12月
1 明治維新と富国強兵	236	5
2 立憲国家の成立	247	
第13章 近代国家の展開		
1 日清・日露戦争と国際関係	256	6
2 第一次世界大戦と日本	266	
3 ワシントン体制	272	
第14章 近代の産業と生活		1月
1 近代産業の発展	279	6
2 近代文化の発達	288	
3 市民生活の変容と大衆文化	294	
第15章 恐慌と第二次世界大戦		7
1 恐慌の時代	300	
2 軍部の台頭	305	
3 第二次世界大戦	311	
第16章 占領下の日本		2月
1 占領と改革	325	4
2 冷戦の開始と講和	333	
第17章 高度成長の時代		
1 55年体制	339	4
2 経済復興から高度経済成長へ	344	
第18章 激動する世界と日本		3月
1 経済大国への道	353	3
2 冷戦の終結と日本社会の変容	359	
(4) ● 現代日本の課題の探究		2
● 様々な災害と日本	365	

[凡例]

- 年代は西暦を主とし、日本の年号は()の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが、年月はすべて日本暦をもとにし、西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月1日は、西暦では1587年1月9日であるが、1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったが、この年のことはすべて1868(明治元)年とした。
- 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめたが、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。法令などの史料には、適宜、第何条にあたるかを示す数字をつけた。
- 国名は、次のように表記する場合がある。〔日本：日 中国：中 韓国：韓 アメリカ：米 ロシア：露 イギリス：英 フランス：仏 ドイツ：独 オーストリア：奥 イタリア：伊 オランダ：蘭 ソヴィエト社会主義共和国連邦：ソ〕

詳しくみてみよう! (2次元コード)

画像	一遍上人絵伝(巻7) 87/洛中洛外図屏風 89/伯耆国東郷荘の地下中分図 98/南蛮屏風 149
文字資料	武家諸法度(元和令) 155/武家諸法度(寛永令) 157/武家諸法度(天和令) 177/大日本帝国憲法 252/二十一カ条の要求 269/日本国憲法 330/サンフランシスコ平和条約 337/日米相互協力及び安全保障条約 342
動画	貝塚 10/荘園図 72/鎌倉街道と切通 91/鉄砲伝来 139/富岡製糸場 240/米騒動 271/関東大震災 276/八幡製鉄所 284/戦時下の生活 314/安保闘争 342/石油危機 354 (動画はすべてNHK for Schoolのコンテンツです。)

* 本書掲載の2次元コードからインターネットを使用した学習ができます。2次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料がかかります。インターネットを使用するには、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。

2次元コードから、より深い理解に役立つ動画や、細部を確認するための拡大画像、紙面掲載部分以外の文字資料などを見られるようにしています。

(4) ● 現代日本の課題の探究
● 様々な災害と日本



〇〇の転換と歴史的環境

*大項目Aの中項目(1)は「黎明期の日本列島と歴史的環境」

日本史探究では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代の最初(1・5・8・11章)に**時代の転換**を取り上げ、中学校の学習や、前の時代との比較などを通して考察し、「**時代を通観する問い**」を表現することが求められています。

時代を概観する部扉

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代(各部)の冒頭では、**世界史の展開**と関連づけて、時代の大きな流れを概観し、年表にもまとめました。

学習指導要領 中項目(1)

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」各時代の最初の章では、**時代の転換**を意識した記述を入れています。

5

院政と武士の躍進

大陸で宋、朝鮮半島に高麗が建てられた頃、日本では地方で武士が成長し、**荘園**が各地に生まれ、中央で摂関政治が停滞して院政が始まった。院政はどのように成立したのだろうか。またその後、武士が台頭してくるきっかけは何だろうか。

1 院政の始まり

日本列島の大きな変化

11世紀の後半、朝廷では政治の転換期を迎えた。天皇家や摂関家・大寺社は、諸国からの税収が不安定になる中、荘園の拡大をはかった。しかし、荘園の増加により、支配する公領(国領)を圧迫された国司は、荘園の不入の権利を取り消すなどの荘園整理をおこなったため、対立が深まった。

地方では豪族や開発領主として力をのばしてきた武士の成長が著しく、貴族や大寺社と結びついて私領の拡大をはかった。なかでも東日本での反乱を機に、源氏の武士が奥州に勢力を広げた。九州では、大陸との交通が盛んになり、日宋貿易の窓口である博多の周辺には、大寺社や上級貴族が進出していった。

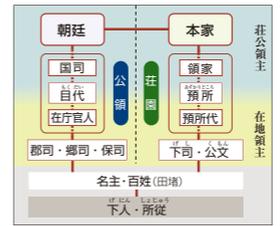
延久の荘園整理令と荘園公領制

関白の藤原頼通に皇位継承を抑えられてきた後三條天皇は、即位すると、ときの摂政・関白を外戚としないこともあって、新たな政治を進めた。天皇は摂関政治の弊害をみて成長してきたため、大江匡房らの学識にすぐれた人材を登用し、荘園の増加により公領が圧迫されているとして、1069(延久元年)年に延久の荘園整理令を出した。

天皇は整理の審査を地方の国司にゆだねず、中央に記録所(記録荘園券契所)を

記録荘園券契所の設置
コノ後三條天皇御時……延久ノ記録所トテハジメテカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨、宣符、モナクテ公田ヲカスムル事、一天四海ノ巨害ナリトキコシメシメテアリケルハ、ナハチ字治殿ノ時、一ノ所ノ御

設け、荘園の所有者から提出された証拠書類(券契)と国司の報告とをあわせて審査し、新しく立てられた荘園や書類不備の荘園など、基準にあわないう荘園を停止した。摂関家の荘園も例外ではなく、この整理令はかなりの成果を上げた。荘園整理によって、貴族や寺社が支配する荘園と、公領との区別が明確になり、貴族や寺社は認められた荘園の整備を進め、国司は公領を郡・郷・保などの新たな単位に再編成し、支配下にある豪族や開発領主を、郡司・郷司・保司に任命して徴税を請け負わせた。



荘園公領制の仕組み

また、国司は田所・税所で派遣した目代の指揮のもとこれに応じて在庁官人や郡地のように管理し、荘園領主もとで国・郡・里(郷)など上と公領(郡・郷・保)が並立する整備された荘園や公領では(田堵)などの有力な農民に害の立場から、しだいに権利を名主は、名を下人などの隷属せながら、年貢・公事・夫役

院政の開始

11世紀後半は争う中で、の武士を率いて安倍氏と戦い安倍氏を滅ぼした(前九年合戦)。その後、陸奥・出羽両国で起こり、陸奥守であった源朝光が内紛を制圧した(後三年合戦)。こうした武士の力に目を付けた院政は、父の後三條天皇(院)として院政を開き、



厳島神社「平家納経」 平清盛は安芸の厳島神社を平家一門の氏神とした。清盛は一門の繁栄のために法華経などの写経を奉納した。(広島県)



「信貴山縁起絵巻」 12世紀の絵巻。命運という僧が鉢を飛ばして長者(地方豪族)の倉を信貴山まで運んだという話などを描く。動的な線描で庶民の生活や風俗を描く。(飛鳥の巻、部分、朝 藤原子母殿、奈良県)

島神社には、豪華な「平家納経」が伝わっており、平氏の栄華と貴族性を物語っている。絵と詞書を織り混ぜて時間の進行を表現する絵巻物は、この時代には大和絵の手法が用いられて発展した。「源氏物語絵巻」は貴族の需要に応じて描かれ、「伴大納言絵巻」は応天門の変に取材し、朝廷の年中行事を描いた「年中行事絵巻」とともに、院政の舞台となった京都の姿を描いている。また「信貴山縁起絵巻」は聖の生き方や風景・人物をたくみに描き、「鳥獣人物戯画」は、動物を擬人化していきいきと描いている。こうした絵巻物や「扇面古写経」の下絵からは、この時代の地方社会や庶民の生活をうかがうことができる。

第5章のまとめ

- 問1 院政の登場は、貴族社会にどのような影響を与えただろうか。また、その理由は何だろうか。
- 問2 摂関政治と院政には、どのような類似点と相違点があると考えられるだろうか。
- 問3 貴族政治の変容や武士の政治への関与などの観点から、中世の特徴について、古代とも比較して、問いを表現してみよう。

章末には、まとめの問いを設けています。各時代の最初の章のまとめの問いでは、「**時代を通観する問い**」の表現をうながします。

時代	平安	鎌倉	南北朝	室町	戦国	安土・桃山
文化(院政)	(院政)	(鎌倉)	(南北朝)	(室町)	(戦国)	(安土・桃山)
政治	平氏滅亡	鎌倉幕府成立	鎌倉幕府滅亡	室町幕府成立	室町幕府滅亡	豊臣幕府成立
主要事件	承久の乱	元寇	應永の乱	永享の乱	享徳の乱	天正の乱
世界	南宋	元	明朝	朝鮮	明	ムガル帝国

歴史資料と〇〇の展望

学習指導要領 中項目(2)

「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、諸資料を活用し、各時代の最初の章(1・5・8・11章)で表現した「時代を通観する問い」をふまえ、時代の特色について考察し、このあとの学習に向けて時代を展望し、**仮説を表現**します。

歴史資料と中世の展望

絵画から中世社会を探る

中世には絵画が多く制作されたので、それらを見てゆくと人々の動きやものの見方がうかがえる。ときに声や喧騒が伝わってくる。それぞれの絵画が何を目的として描かれたのかを考えながら、目をこらし、人々の行動や背景として描かれた風景に注目してみよう。
ここでは、中世に貫して政治や文化の中心であった京都を描いた作品を並べたので、比較して時代の推移を考えてみよう。



『年中行事絵巻』(朝観行幸の図、住吉家模本、田中家蔵)

保元の乱(1156年)後、乱で荒れた都の再生をはかった後白河上皇(一p.81)の命によって制作された、都とその周辺でおこなわれた年中行事を描く絵巻である。場面は二条天皇が年頭のあいさつのため、父の後白河上皇のいる法住寺御所に向かう行幸の様子が描かれている。
▶ 行列のゆく都の大路、それを見つめる町中の人々の視線、住んでいる家の様子にも注目しよう。そのうえで、上皇がどうしてこの場面を描かせたのかを考えたい。『年中行事絵巻』には、ほかにどのような場面が描かれたのであろうか。



86 歴史資料と中世の展望

時代を展望するため、歴史資料として、遺物や文字資料、絵画、統計などを取り上げました。また、資料を読み取り、それに基づいて考察し、**仮説を表現**するきっかけとなるポイントを示しています。

歴史資料と原始・古代の展望②

木簡から古代国家を探る

古代には、文書主義を特徴とする律令制のもとで、紙の文書とともに、木の札に墨書した木簡が、情報伝達的手段として多く用いられた。平城宮跡や平城京の長屋王邸宅跡をはじめ、地方でも大宰府(一p.38)・多賀城(一p.45)ほかの役所の遺跡などから、多数の木簡が出土している。木簡から古代の歴史をみてみよう。

木簡には、文書のほか、地方から京に運ばれた貢進物に付けられた荷札や、漢字の練習書きに用いた習書などがある。紙の文書は捺印されて正式の伝達手段となる一方、文書木簡も、毎日の食料などの請求・支給など、木簡の方が便利な場合に使われた。人・物・情報の移動をそのままの状態で伝える木簡からは、当時の中央・地方の関係や役所の動きがわかり、あわせて下級官人たちの日常業務や地方の実情を知

人たちへの給食がおこなわれた。

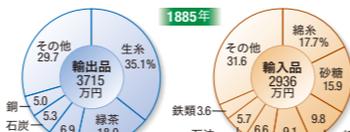
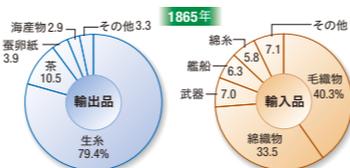
また、平城京の長屋王邸(一p.43)から出土した長屋王家木簡には、貢進された食料の荷札木簡(①)や、京近くの所領から食料を運上した文書木簡(②)、箱漬の瓜などがみえる)などがある。
▶ 木簡と紙の文書は、どのように使い分けられたのだろうか。紙・木の素材の特徴から、考えてみよう。
▶ 地方からの貢進物の荷札木簡を書いたのは、どのような人々だろうか。また、漢字文化は古代の地方にどのように広まったのだろうか。



歴史資料と近代・現代の展望②

貿易の変遷からみる日本の近代・現代

1859年の開港により本格的に貿易が始まった。国際価格と、国内産業の状態を反映する国内価格との差によって輸出入品が決まり、輸出産業は成長した。輸入超過は金銀の流出をもたらして国を貧しくし、外国からの借入れでこれをおぎなうことは、国の独立を危うくすると考えられた。そこで、輸出産業の振興と、輸入品の国産化をはかる経済政策がとられた。輸出入については、関税を課すためにその数量が記録され、経済の状況を統計として利用されてきた。これにより、それぞれの時期の産業の状況と経済政策の課題を考えてみよう。



幕末1865(慶応元)年の輸出は生糸が中心で、茶がこれに続く。輸入では織物が大半を占める。欧米の産業革命の影響がはっきりとみられる。

1885(明治18)年になると、輸入の首位が綿糸になる。これは、国内のどのような変化を反映しているのだろうか。また機械とともに、砂糖や石油の輸入が増えているのは何を意味

三河からのサメ(④)、上総・隠岐からのアワビ(⑤⑥)などの食料が、貴(天皇用の食料)や調として公民の負担(運脚、一p.41)などで貢進され、宮内で消費されたのである。

▶ 貢進物として多様な食料を都に集めなくてはならなかったのは、なぜだろうか。律令財政の仕組みを考えてみよう。
▶ 地方からの貢進物の荷札木簡を書いたのは、どのような人々だろうか。また、漢字文化は古代の地方にどのように広まったのだろうか。



木簡をくりつけた荷物(複製図、三重県津市文化財センター)

律令国家の中央政府と地方の役所とのあいだでは、何のためにどのような内容の文書や木簡のやりとりがおこなわれたのだろうか。仮説を立ててみよう。また、文書や木簡が果たした機能や、地方における漢字文化の広がりはどのようなものであったのかに着目して、仮説を立ててみよう。

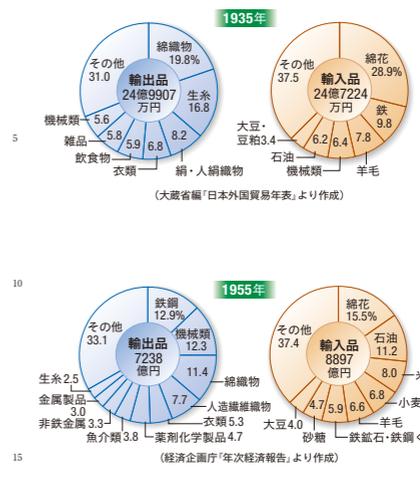


①-⑥は奈良文化財研究所蔵

木簡の保存

木簡は、水分を多く含んだ古代の遺構から出土する、きわめて脆弱な遺物である。水漬のまま大切に扱いながら調査・研究されるときも、保存処理がほどこされる。空気中でも安定した状態となった木簡の中には、重要文化財に指定された木簡もあり、さらに国宝となった平城宮木簡もある。

木簡から古代国家を探る 23



1935(昭和10)年... 1955(昭和30)年... 1975(昭和50)年... 1955(昭和30)年と綿織物もみられる。その背景や...



詳説日本史

〇〇の国家・社会の展開と画期

学習指導要領 中項目(3)

*大項目Dの中項目(3)は「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」

歴史資料と〇〇の展望のあとの学習では、「時代を通観する問い」や仮説をふまえ、資料を活用して、各時代の展開について考察し、**諸事象の解釈や画期を表現**します。また、その際に、**解釈・説明・論述**を繰り返しおこない、**思考力・判断力・表現力**を育成することが求められています。

2次元コード



より深い理解に役立つ動画や、細部を確認するための拡大画像、紙面掲載部分以外の文字資料などを見られるようにしています。



各章に導入文を設け、これから学ぶ内容の概略とともに、その章の学習上の視点となる問いかけを示しました。

第6章 武家政権の成立

12世紀末の内乱の中から、最初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が誕生した。鎌倉幕府は承久の乱やモンゴル襲来を経て全国政権に成長するとともに、幕府に集った武士たちが守護や地頭として全国に展開していった。武士の勢力拡大は、鎌倉時代の政治や社会にどのような影響をもたらしたのだろうか。

1 鎌倉幕府の成立

源平の争乱 平氏一門の繁栄は、後白河法皇や院近臣との対立を招き、1177(治承元)年には藤原成親や僧の俊寛らが、京都郊外の鹿ヶ谷で平氏打倒をはかり、失敗する事件がおこった(鹿ヶ谷の陰謀)。そこで平清盛は1179(治承3)年、武力を背景に後白河法皇を鳥羽殿に幽閉し、関白以下多数の貴族を処罰し、官職を奪う強圧的手段で国家機構のほとんどを手中におさめた。さらに翌年には高倉天皇の中宮である娘徳子(建礼門院)の生んだ子を安徳天皇として即位させ、外戚の地位も手に入れた。

源平の争乱(月は陰暦による、*印は幕府設立関係)	
1177. 5	鹿ヶ谷の陰謀
1179. 11	平清盛、後白河法皇を幽閉
1180. 2	安徳天皇即位
5	以仁王・源頼政ら挙兵、敗死
6	福原遷都(11月には京都に戻す)
8	源頼朝挙兵、石橋山で敗れる
9	源義仲挙兵
10	*頼朝鎌倉入り。富士川の戦い
11	*頼朝、侍所を設置
12	平重衡、南都を焼打ち
1181. 閏2	清盛の死(64歳)
4~	義和の飢饉
1183. 5	俱利伽羅峠(筋波山)の戦い
7	平氏の都落ち、義仲入京
10	*後白河法皇、頼朝の東国支配権を認める
1184. 1	源範頼・義経、義仲を討つ
2	摂津一の谷の戦い
10	*頼朝、公文所・間注所を設置
1185. 2	讃岐屋島の戦い
3	長門壇の浦の戦い、平氏滅亡
11	*頼朝、守護・地頭を設置
1189. 9	頼朝、奥州平定
1192. 7	*頼朝、征夷大將軍となる

ここに清盛の権力集中は頂点に達するかにみえたが、かえって中央の貴族・大寺院や地方の武士団のあいだで平氏の専制政治に対する不満が高まった。

この情勢をみた後白河法皇の皇子以仁王と、畿内に基盤をもつ源氏の源頼朝は、平氏打倒の兵をあげ、挙兵を呼びかける以仁王の命令(令旨)が諸国の武士に伝えられた。

これに応じて、園城寺(三井寺)や興福寺などの僧兵が立ち上がり、つづいて伊豆に流されていた源頼朝や信濃の木曾谷にいた源義仲をはじめ、各地の武士団が挙兵して、ついに内乱は全国的に広がり、5年にわたって争乱が続いた(治承・寿永の乱)。

平氏は当初、都を福原(神戸市)に移した。福原は近

本文の流れを重視し、背景や因果関係が理解しやすい記述を心掛けました。

くに良港大輪田泊があり、瀬戸内海支配のための平氏の拠点であったが、この遷都には大寺院や貴族たちが反対したため、平氏は約半年間で都を京都に戻し、畿内を中心とする支配を固めてこれらの動きに対応した。しかし、清盛の突然の死や、畿内・西国を中心とする源義経などで平氏の基盤は弱体化し、1183(寿永2)年に北陸で源義仲に敗北すると、平氏は安徳天皇を奉じて西国に都落ちした。その後、都に入った義仲と対立した後白河法皇の要請を受け、源頼朝は弟の源範頼・義経らの軍を上洛させて義仲を滅ぼし、さらに平氏と戦い、摂津一の谷、讃岐の屋島の戦いを経て、ついに1185(文治元)年に長門の壇の浦で平氏を滅亡させた。

この一連の争乱で大きな活躍をしたのは、地方の武士団であった。彼らは国司や荘園領主に対抗して所領の支配権を強化・拡大しようとつとめ、そのための新たな政治体制を求めていた。

鎌倉幕府 反平氏の諸勢力のうち、東国の武士団の大半が武家の棟梁源氏の嫡流である頼朝のもとに結集したため、頼朝はもっとも有力な勢力に成長した。頼朝は挙兵すると、相模の鎌倉を根拠地として広く武士たちと主従関係を結び御家人として組織し、東国の荘園・公領を支配して彼らの所領支配を保障していった。1183(寿永2)年には、平氏の都落ちのあと、京都の後白河法皇と交渉して、東海・東山両道の東国^①の支配権の承認を得た(寿永二年十月宣旨)。

1185(文治元)年、平氏の滅亡後、頼朝は義経と対立するようになった。義経が法皇から頼朝追討令を与えられて挙兵するも失敗すると、頼朝は軍勢を京都に送って法皇にせまり、義経追討を名目として諸国に守護^②を、荘園や公領には地頭を任命する権利や1段当たり5升の兵糧米を徴収する権利、さらに諸国の国衛の実権を握る在庁官人^③を支配する権利を獲得した。こうして東国を中心にした頼朝の支配権は西国にもおよびはじめ、武家政権としての鎌倉幕府が確立した。



鎌倉周辺図 鎌倉は源頼義以来、源氏とのゆかりが深い地で、三方を小さな丘陵に囲まれ、南は海にのぞむ要害の地であった。



Q 鎌倉幕府はどのような過程を経て成立したのだろうか。

① 幕府の支配権が強力におよぶ東国の範囲は、やがて遠江・信濃以東の15カ国とされた。

② 守護は当初、惣追捕使や国地頭などとも呼ばれたが、のちに守護に統一された。

Q 下司などの荘官と地頭の、共通点と相違点は何だろうか。

本文を読む際の着眼点となるような問い(Q)を設け、考察をうながしています(解答例は、教師用指導書、整理ノートで扱っています)。



〇〇の国家・社会の展開と画期

読みといてみよう

史資料をもとに、解釈したり、説明したり、論述したりする学習をうながします(解答例は、教師用指導書、整理ノートで扱っています)。

読みといてみよう

武家諸法度(天和令)の元和令(一〇一五史料)・寛永令(一〇一七史料)と天和令から、幕府の統治理念がどのように変化したかを、考えてみよう。

読みといてみよう

このグラフから、第一次世界大戦前後の日本の貿易は、どのような状況にあったといえるだろうか。また、その背景を説明してみよう。

本文の理解や、思考力・判断力・表現力の育成に役立つ、写真、地図、統計資料、文字資料などを豊富に掲載しています。



詳説日本史

読みといてみよう

なぜこのような市が開かれたのだろうか。扱われている商品や備前国福岡という立地に着目して説明してみよう。

備前国福岡の市 1278(弘安元)年、備前の福岡の市で布教する一遍(左端の僧)が、刀をもった男に襲われている図。市日には、道路を挟んで建てられた仮小屋に、所狭しと品物が並べられ、活発に商品の販売がおこなわれていたことがわかる。

遠隔地を結ぶ商業取引も盛んで、陸上交通の要地には宿が設けられ、各地の湊(港)には、商品の委託販売や中継・運送をおこなう問(問丸)が活躍した。売買の手段としては、米などの現物にかわって貨幣が多く用いられるようになり、荘園の一部では年貢の銭納もおこなわれたが、それにはもっぱら中国から輸入された宋銭が利用された。

幕府の衰退 生産や流通経済のめざましい発達と社会の大きな変動の中で、幕府は多くの困難に直面していた。モンゴル襲来は御家人たちに多大な犠牲を払わせたが、幕府は十分な恩

紀伊国阿武河河庄民の訴状 阿武河ノ上村百姓ラツシテ言上...

永仁の徳政令 質入れ、質買地... 質を与えることができず、御家人たちの信頼を失う結果になった。

幕府は、1297(永仁5)年に永仁の徳政令を發布して、御家人の所領の質入れや売買を禁止し、それまでに質入れ・売却した御家人領を無償で取り戻させ、御家人が関係する金銭の訴訟を受けつけないこととした。

暗記になりがちな美術作品や文学作品の一覧は削り、主要な作品は、本文や注、写真で掲載しました。

「読書」(左)と「湖畔」(右) 黒田清輝は17歳でフランスに渡り、2年後に専攻を法律から絵画に改めて10年近く留学し、帰国後は東京美術学校に新設された西洋画科で指導に当たった。

〇〇の国家・社会の展開と画期



住吉の祭り 立ち並ぶ白壁2層の土倉が富と資本の町である堺を表し、町を画する堀がつくられている。図は住吉祭の仮装行列の様子。(住吉祭礼図屏風、部分、堺市博物館蔵、大坂府)

Q 戦国時代の大名の政策により発展していった都市には、どのようなものがあるだろうか。

場町が繁栄した。これらの都市の中には、富裕な商工業者たちが自治組織をつくって市政を運営し、平和で自由な都市をつくり上げるものもあった。日明貿易の根拠地として栄えた堺や博多、さらに摂津の平野、伊勢の桑名や大湊などが代表的であり、とくに堺は36人の豪合衆、博多は12人の年行司と呼ばれる豪商の合議によって市政が運営され、自治都市の性格を備えていた。

① 惣村と町をあわせて村町共同体、またそれらを基礎とする支配の仕組みを村町制と呼ぶこともある。

一方、京都のような古くから続く政治都市にも、富裕な商工業者である町衆を中心とした都市民の自治的団体である町が生まれた。惣村と同じように、町はそれぞれ独自の町法を定め、住民の生活や営業活動を守った。さらに、町が集まって町組という組織がつくれ、町や町組は町衆の中から選ばれた月行事の手によって自治的に運営された。応仁の乱で焼かれた京都は、これらの町衆によって復興され、祇園祭も町を母体とした町衆たちの祭りとして再興された。

② 京都ではさらに複数の町組が集まって、上京・下京という巨大な都市組織(惣町)を形成していた。

教科書の判型を大きくし(A5判→B5変型判)、写真・図版を大きく・見やすく掲載しました。



(安井曾太郎画、縦96.5cm、東京国立近代美術館蔵)

を得た。これらは、錦絵行などによって、全国に伝った中で、村々の若者が中居)や人形芝居が各地で取り切った。そして、

るために、境内で縁日や開くの人々を集めた。また湯なわれ、伊勢神宮・善光聖地・霊場への巡礼がさか、盂蘭盆会などの行事、日



「転生」高村光雲に学び、開倉天心に認められて日本を代表する彫刻家となった平藤田中の代表作の1つ。(高さ239.3cm、東京藝術大学蔵)

第7章のまとめ

- 問1 室町時代の惣村や町の自治のあり方と現代の自治のあり方には、どのような類似点と相違点があると考えられるだろうか。
- 問2 15～16世紀にかけて多発した争乱は、人々の生活や文化にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。

136 第7章 武家社会の成長

ぐため、集団で飲食し夜を徹す集まり。 待月待夕庚申講はこの来りのはが、町や村々を訪れる猿廻しや万歳、盲人の替女・座頭などによる芸能が、人々を楽しませた。

第10章のまとめ

- 問1 幕藩体制の動揺に大きな影響を与えたこととして、何が考えられるだろうか。また、その理由は何だろうか。
- 問2 幕藩体制の動揺に際して、江戸幕府はどのような対策をおこなっているだろうか。おもな政策をあげてみよう。またそれは、成功したといえるか考えてみよう。
- 問3 近世後期の諸産業や文化において、近代への大きな転換と考えられる変化には、どのようなことがあるだろうか。

218 第10章 幕藩体制の動揺

して二科会や春陽会が創立され、安井曾太郎・梅原龍三郎・岸田劉生らが活躍した。日本画では、横山大観らが日本美術院を再興して院展を盛んにし、近代絵画としての新しい様式を開拓した。建築では、1914(大正3)年に開業した東京駅が辰野金吾の代表的な作品となった。

第14章のまとめ

- 問1 日本の産業革命の要因として、何があげられるだろうか。政府の政策や社会状況など、様々な観点から考えてみよう。
- 問2 日本における大衆文化の発展の背景には、何があろうか。政府の政策や社会状況など、様々な観点から考えてみよう。
- 問3 産業革命や大衆化が進む中で生じてきた問題には、どのようなものがあるだろうか。また、現代社会における問題と比較してみよう。

3 市民生活の姿容と大衆文化 299

章末に、時系列や推移、諸事象の比較、意味や意義、特色、因果関係や画期などについて、まとめの問いを設けました。

現代の日本の課題の探究

学習指導要領 中項目(4)

日本史探究の科目のまとめとして、**主題を設定**して、現代の日本の**課題を探究**します。

現代日本の課題の探究——様々な災害と日本

これまで学んできた日本の歴史の中から、「社会や集団と個人」「世界の中の日本」「伝統や文化の継承と創造」など、現代日本に関わる様々な課題を設定することができる。自分が関心のある課題をみつけて取り組んでみよう。ここでは例として、災害をテーマに考えてみたい。

I 社会や集団と個人 「災害対応」についての考察

(1) 問い・仮説を立ててみよう

日本列島で生きてきた人々にとって、暴風・豪雨・洪水・地震・津波・噴火などの災害は、きわめて身近なものだった。人々は、みずからの生活をおびやかす災害にどのように向き合ってきたのだろうか。

1707(宝永4)年、富士山が噴火した(宝永の富士山噴火)。被災地域の大部分は小田原藩の領地で、藩は緊急の救恤米(被災者救済のための米)を支給するのが精一杯であり、抜本的な対策を幕府にゆだねざるをえなかった。

1708(宝永5)年、幕府は武蔵・相模・駿河3カ国のうち、被災の著しい村々について幕府に編入することを決定した。つづいて、幕府は資料1の触れを出した。

これによれば、全国の幕領と大名・旗本領から石高100石につき金2両を徴収し、1万石以上(大名)は立て替え金を3月までにおさめ、1万石未満(旗本)は6月までにおさめることとした。また50石未満の場合は免除し、寺社領は除外している。この触れにより、幕府は救済資金として全国から約49万両を徴収したが、このような大名領まで対象とした租税形態は従来にはみられなかったものである。

宝永の富士山噴火がおこった時期は5代将軍徳川綱吉の時代で、幕藩体制の安定期に当たった。幕府が諸大名に対する強大な権力を発動できた点にこの時期の社会の特色があり、小田原藩領



(2) 仮説を検証するために、文化財に関する法律や施策の背景を調べてみよう

① 文化財を守るための法整備

文化財を保護するための近代的な法整備は、いつから始まったのだろうか。資料9は文化財保護に関する法律の変遷をまとめたものである。

年	文化財保護に関する動き
1871年	古書・旧物保存方の布告
1897年	古社寺保存法の公布
1919年	史蹟名勝天然記念物保存法の制定
1929年	国宝保存法の制定
1933年	重要美術品等ノ保存ニ関スル法律の制定
1950年	文化財保護法の制定

資料9:文化財保護に関する法律の変遷

▶それぞれの時期に文化財保護の動きが強まった背景には何があったと考えられるだろうか。また、それぞれの法律の具体的な内容についても調べてみよう。

1950(昭和25)年に制定された文化財保護法は、その後、何度も改正がおこなわれてきた。資料10は、それぞれの改正の内容を簡潔にまとめたものである。

改正年	内容
1954年	無形文化財・埋蔵文化財・民俗資料に関する保護制度の充実
1968年	文化庁の発足
1975年	伝統的建造物群保存地区制度の創設、文化財の保存技術の保護制度の創設
1996年	文化財登録制度の創設
1999年	都道府県・指定都市等への権限委譲等
2004年	文化的景観の保護制度の創設
2018年	文化財保存・活用のための計画制度の創設

資料10:文化財保護法の改正

▶資料をみて気づいたことや、考えたことを表現してみよう。また、2018(平成30)年の改正における文化財の「活用」とは具体的にどういうことが、身近な事例を調べてみよう。

② 文化財レスキュー事業

文化庁は、自然災害により被災した美術工芸品を中心とする文化財等を保全し、廃棄・散逸や盗難の被害から防ぐため、災害の規模・内容に応じて「文化財レスキュー事業」(正式名称は被災文化財等救援事業)を展開している。1995(平成7)年の阪神・淡路大震災の時をはじめ組織され、2011(平成23)年の東日本大震災においても展開された。

資料11は、東日本大震災におけるレスキュー事業に携わった「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」のメンバーの声である。

▶この資料を読み、文化財を保護していくために何が必要か、考えてみよう。また、ここで述べられていること以外で、文化財を保護・継承していくための課題として何があげられるか、考えてみよう。

資料11:「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」のメンバーの声

…現在の福島県内で歴史資料あるいは文化遺産がいったいどういふ状況にあるのか、情報がなかなか集まってこない、出てこないというあたりも、震災の頃からほとんど進歩していない気がするんですね。だからこそ、いろいろな情報を持ち寄り、歴史や文化に関心を持つ人たちが集まったりする「つながりの場」というのが、あらためて必要だと感じているわけです。… (阿部浩一・福島大学つくしまふくしま未来支援センター編「ふくしま再生と歴史・文化遺産」より)

IV 学習の成果を共有しよう

探究した内容について、レポートにまとめたり、新聞を作成したりするなどして、発表してみよう。また、自分とは異なる表現・発信方法でほかの課題に取り組んでいる人たちと意見交換や討論をおこなって、歴史認識を深めていこう。

日本史探究のまとめでおこなう現代の日本の課題の探究の例として、日本における災害の歴史を扱い、災害という課題から、歴史を考える視点を例示しました。

370 現代日本の課題の探究



教師用指導書 授業実践編

日探705準拠

B5判・388頁・2色刷・付属データ集DVD-ROM付 定価22,000円(10%税込)

『詳説日本史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

板書例

2. 飢饉と打ちこわし

a 享保の飢饉(1711) : 天候不順の連続 → 全国に及び → 江戸で打ちこわし(米価急騰)

b 天明の飢饉(1828) : 冷害が浅間山 → 東北を中心 → 江戸・大坂

田沼時代

1. 田沼時代

10代家治の時代、

2. 財政方針の転換

幕府財政の再建は → 民間の経済活動

田沼時代

学習の目標

- ▶ 18世紀後半、家格の低い田沼意次が側用人を経て老中に就任した意味を理解する。
- ▶ 商人資本を積極的に活用した田沼の財政政策が従来の方針とどう違うのかを考察する。
- ▶ 天明の飢饉が起こるまで、一揆が頻発する中で、田沼意次が老中解任となった背景を理解する。

解説 田沼意次①

意次の父は紀州藩士で、吉宗の將軍就任に伴い旗本の旗本となった。意次は16歳でのちに9代將軍となる家重の小姓となり、10代家治の側用人から老中へと昇進を遂げた。老中は10万石以下の譜代大名が代々就任するのが基本で、前列階級の傾向が強かった。一方、田沼意次は従来の政策の是非を見極め、積極的な財政再建策をとった。

▶ **解答例①**

従来の農業重視・年貢増徴による政策が財政難の解決にいたらず、逆に農村の階層分化をまねいたことを勘案し、民間の経済活動を活性化し、その富の一部を財源に取り戻そうと商業重視の政策を実施した。

第10章 幕藩体制の動揺

本章では、幕府の諸改革の内容をおさえるとともに、訴訟や一揆・打ちこわしなどの内憂と外国勢力の圧力という外患により幕府が動揺したことについて、その背景や原因を理解させる。

1 幕政の改革

享保の改革

学習の目標

- ▶ 享保の改革がなされた背景・目的を理解する。
- ▶ 享保の改革について、その成否を短期的な視点と長期的な視点の両面から考察する。
- ▶ 享保の改革の機構整備の側面について、時代背景と関連づけて説明できる。

解説 徳川吉宗①

1684(貞享元)年に紀伊藩主徳川光貞の4男として誕生。1705(宝永2)年、長兄綱紀、父光貞、次兄頼職の相次ぐ他界で紀伊徳川家55万石を相続。徳川宗家の断絶に備えて設けられた三家の当主で唯一、家康の曾孫であったことから8代將軍に就任。「諸事権現様御定め通り」を旨として幕政に当たった。

解説 御用取次②

吉宗の將軍就任に際し、紀州藩士有馬氏倫・加納久通らを任じたことに始まる。職務は、將軍と老中以下の人との取次役、目安箱の取扱いや御庭番の管理など。5代綱吉が置いた側用人柳沢吉保や6代家宣・7代家継の閣下詮房らは將軍側近として幕政に深く関与したが、吉宗は側用人を廃し、將軍自身が幕政改革に関与した。

解説 大岡忠相③

1677(延宝5)年に旗本の家に生まれ、山田奉行を経て、1717(享保2)年に江戸南町奉行に抜擢、享保の改革の都市政策に関与した。また、三奉行の1人として評定所に列なっている。

解説 足高の制④

徳川幕府では、役職ごとに基準の禄高(役高)が決まっており、家格相応な役職に就くことが前提で、能力があっても家格の低い者は要職に就けなかった。足高の制(1723年制定)では、在職のみ不足の役料(石高)を支給し、退任後はもとの石高とすることで、財政負担をおさえながら、才能ある人材の登用が可能となった。

解説 相対済し令⑤

1719(享保4)年に制定。当時、金公事が訴訟の9割を占め裁判事務全体を滞らせたため、金銭貸借訴訟は当事者間で解決するよう命じた。借金は当人同士で借額の上と成立する私的なもので、領主が関与すべきでないとの考えが背景にあった。

史料 上げ米の令⑥

財政が破綻し幕臣への切米支給にも事欠くなか、新田開発・年貢増徴などの財政再建策が奏功するまでの応急策として1723(享保8)年に導入された。

▶ **解答例①**

幕府は、上げ米の代償に参勤交代の江戸在府期間を半減したが、参勤交代は大名課役であり、財政難とはいえ幕府みずから大名統制手段をゆるめること

板書例

《享保の改革》

1. 享保の改革

7代將軍家継の死去後、三家の紀伊藩主吉宗が8代將軍となり、取り組んだ幕政の改革

2. 人材の登用

a 側用人による側近政治 → 御用取次を介して將軍の意思を反映

b 大岡忠相、田中平助(「民間省要」)らの登用

* 足高の制: 家格の低い者の登用 → 在職期間中のみ役料補足

c 儒学者荻生徂徠、室鳩巢を待遇とする

3. 財政の再建

a 相対済し令(1719年)

: 金公事訴訟を受付けず当事者間で解決

b 上げ米の実施(1722~30年)

: 大名は石高1万石につき100石を臨時に上納

= 年18.7万石 > 幕府年貢収入の1割

代わりに参勤交代の在府期間を半減

c 年貢の増徴

(1) 検見法 → 定免法による年貢率引上げ

(2) 商品作物生産の増加 → 畑地からの年貢増収

d 新田開発(江戸日本橋に高札 → 商人資本の活用)

: 飯沼・紫雲寺湯・武蔵野・見沼代用水新田

e 大坂堂島米市場公認

: 米価平準化による武家財政の安定を企図

f 甘藷(青木昆陽の登用)・サトウキビ・榎(蠟燭原料)・朝鮮人参の栽培奨励

* 漢訳洋書の輸入制限の緩和もおこなう

* 青木昆陽や野呂元丈によるオランダ語の習得 → 蘭学の興隆

4. 日光社参(1728年)の実施

* 4代將軍の時代以来65年ぶり

: 東照権現(家康)の御定めを通り主張 → 強い將軍像を誇示

5. 江戸の都市政策(町奉行: 大岡忠相)

a 防火設備の設置: 広小路・火除地

b 町人地の消火に当たる町火消の整備

c 目安箱: 庶民の意見を聞き取り → 貧民対象に小石川養生所を開設

10 幕藩体制の動揺

幕藩体制は、100年を越える歴史を辿り、社会のひびみや矛盾があらわらるようになる。幕府は体制を維持するための改革を試みるが、人々の存続のための改革は、富強や一揆・打ちこわし(内憂)となり、新たな外国勢力の圧力(外患)も加わり、やがて幕藩体制の崩壊に至る。そこにはどのような背景や原因があったのだろうか。

1 幕政の改革

享保の改革

1716(享保元)年に7代將軍家継が死去して、家康以来の家康(幕府)がたどると、三家の紀伊藩主であった徳川吉宗が8代將軍になった。吉宗は29年間の將軍在職のあいだ、諸改革を行って幕政の改革に取り組んだ。これを享保の改革と呼ぶ。

吉宗は徳川綱吉以来の側用人による側近政治をやめ、新設の御用取次を介して將軍の意思を幕政に反映させた。政策の実行のために幕府に御用取次(幕府の名目であった田沼意次)ら、有能な人材を多く登用し、また長年幕府や家康の側近で活躍していた儒学者を重用し、將軍みずから先頭に立つて改革に取り組んだ。

改革の中心は、まず財政の再建にあった。1719(享保3)年、紛争する金貸借について相対済し令(金公事)を幕府に課せず、当事者間で解決させるために相対済し令⑤を出した。また町奉行によって民間におこなう訴訟を抑制した。

上げ米の令は、幕府の財政難を克服するために、大名の石高1万石につき100石を臨時に上納させる上り米を実施し、その代わりに参勤交代の自給をゆるめた。つまり、幕府の代官の不正を徹底的に糾弾する一方、農民負担を軽減し、幕府の財政難を緩和した。幕府の財政難を緩和した。幕府の財政難を緩和した。

幕府の財政難を緩和した。幕府の財政難を緩和した。幕府の財政難を緩和した。

とは問題で「御馳等を顧みられず仰せ出され候」との認識をもっていた。

図版 幕領の石高と年貢取納高④

年貢取納率が近世初期から低下し続けているのは、近世初期の検地で把握した石高に基づく年貢額が、単位面積当たりの生産力増強で目減りしたのが背景となる。上の過程は下記参照。

▶ **解答例②**

年貢取納率は上がったが、新田開発による米の増産は米価安をまねいた。武家は年貢米を換金して必要物資をかうで、米価安では財政赤字となる。吉宗は米相場介入を命じ米価の平準化をはかったので、「米公方」と呼ばれた。

解説 検見法(動引検見法)と定免法⑥

検見とは当年の作物を实地検し、作物が悪い場合、検地帳記載の石高(近世初期の把握分)から減免するもので、豊作でも規定以上には増徴されず、領主の収入は一定しなかった。なお、検見費用は村持ちで、検見の間は出稼禁止で高値の時期に売れず農民には不評であったが、天候不順などを訴えれば減免が可能であった。1721(享保6)年に導入された定免法は豊凶に関わらず一定期間の租額を固定して課す方法で、領主は定量の年貢を手当てできたが、課税基準はやはり近世初期段階の把握分で、実際の生産力が伸びている分、農民の手に残る生産物は多かった。よって、定免法の採用では年貢取納率は若干しか上がっていない。1736(元文元)年以降のグラフで年貢取納率が急上昇しているのは、1743(寛保3)年に勘定奉行尾形春央が有毛検見法を導入したことにある。従来の検地帳の記載を無視して、検見で把握した生産力を基に課税したもので、約150年間の生産力の伸びを取等することに成功したのだが、農民の負担は格段に大きくなった。本多利明が「西域物語」で、神尾の言葉として「百姓と胡麻の油は絞れば絞るほどるもの」と記したのはこれ指したものである。

▶ **解答例③**

新田開発による大規模な米増産が米価安をまねく一方、諸産業の発達で生産地と江戸や各地の城下町など消費地の差を生み出して「米価安の諸色高」の格差を生じた。武家は年貢米を換金して物資を購入するので財政難となった。

解説 日光社参の再開⑦

宗家断絶で將軍となった吉宗が、自身の権力強化に活用したのは、幕府創業者である神君家康の権威であり、軍事指揮官としての姿の顕示であった。家康も好んだ鷹狩を復活させ、ついで日光社参再開した。將軍が家康の命日4月17日に靈廟である日光東照宮に参拝する行事で、將軍の権威を大名以下庶民に広く知らしめ効果があった。江戸時代全体で19回、うち16回は2代~4代將軍によるもので、吉宗の社参は1663(寛文3)年の家康以来65年ぶりであった。吉宗は大名・旗本ら大軍勢を引き連れ出発している。社参の実施には多大な費用を要し、膨大な人馬は近在の農村から徴発されたが、農繁期と重なったため農民の負担は大きかった。

解説 目安箱・小石川養生所⑧

目安箱は1721(享保6)年に設置され、町人や百姓の要望や不満を直訴させたもの。投書は住所・氏名の記入が必須であった。箱は評定所の門前に月3回設置され、回収した投書は將軍が直接に検分した。町医小石川産翁の建議で身寄りのない病人の救済のために小石川養生所が設置された。

歴史資料

近代・現代の展望①

五箇条の誓文と国是

資料となる文書にはそれぞれ作成者の意図があるが、合意の結果としてつくられた場合には、その意図にある程度の幅がある。文書を示された人々の解釈にはさらに大きい幅が生じる。そして、その文書が時代を越えて参照されるなら、その解釈は時代に応じて変わる。ここでは、日本の「国是」として提示され、近現代を通じて参照され続けた五箇条の誓文を題材に、資料をめぐる意図や解釈のすれを学び、さらに、その背景となった社会のあり方の変遷を考察する。

【解説】五箇条の誓文
誓文の原形は、新政府の参与となった福澤諭吉の由利公正が「諸侯大臣」、すなわち天皇と藩主たちが申し合わせる国政の基本方針として起草した「憲法大意」で、

- 庶民志を遂げ人心をして徳まさらしむるを欲す
- 民心を一にして盛衰を成るを要す
- 知識を世界に求めて皇基を隆起すべし
- 貴土期限を以て賢才に課るべし
- 万機公論に決し私に論ずる勿れ

の五箇条であった。土佐藩出身の参与福澤諭吉が由利と相談して、5箇条を「列侯會議を興し万機公論に決すべし」と改めて冒頭に移すなど、諸藩主の意見を国政に反映する方針が明確な「国是」とした。しかし、太政官での議論で、天皇親政にふさわしく「天皇がごちとされ、選れた参与となった長州藩出身の戸部孝允が最終的なかたちを整えた(福澤諭吉「五箇条御誓文」由利公正「明憲政経済論」1919年、国立国会図書館デジタルコレクション)。なお引用は全て要点を補っている。

【解説】宸翰
宸翰は天皇が書かれた書状を意味する。宛先は明示されないが、本文中に「汝徳光」とあるので、国民全体ということになる。教科書に載っていない前部部分には誓文の3番目に対応する「天下徳光一人も其処を得ざる時は皆汝が罪」という言葉もあって誓文の示す国のあり方に対応しているが、「会論」「公論」等には触れない。おもに戸部孝允によって執筆されたと考えられている(三宅裕宣「幕末維新の政治過程」吉川弘文館、2021年)。全文は国立国会図書館デジタルコレクション「法令全書」で御誓文と同じ「慶応3年」(翌年分と合帳されているため)の81番項目にあり、同館の「日本法令索引」を利用しても到達できる。

【御誓文の内容はどのようなものだろうか。】
五箇条を、わかりやすく解説する次のようになる。

- (1) 国の方針を会議で決める
(2) 産業振興、開拓などに国民を挙げ取り進む
(3) 国民が自分の希望を遂げるために働ける社会を作る
(4) 従来の良くない慣習を捨て、正しい制度を作る
(5) 諸外国の知識を学び、日本をつくる

(1)は福澤諭吉ほど明確ではないが、政権を委任されていた徳川家の独裁にかわるのが、狭い意味の朝廷の独裁でもなく、諸藩主などの意見が反映される政治体制であることを示すとも理解できる文面である。「列侯」と明示されなかったゆえに、誓文は繰り返し参照される力をもったといえる。

(2)~(5)は日本の制度を壊し、先進国に学びながら、国力の強い国家となるにふさわしい社会体制をつくることを示している。(1)もその一環とみることができる。

(2)の「経綸」は横井小楠がのちの「福産興業」に近い意味で用いた経済活動の振興をはかる政策を示す言葉だが、当時一般に普及していたわけではなかった。原案を起草した由利公正は横井の弟子であったから横井と同じ意味で使われ、福澤も好んだ言葉なのでそのままで残したと回想するが、当時の「太政官日記」で「経綸」と誤植されたほどなじみが薄かった。政府内部でもこれを国家の統治一般のことと理解した者が多く、のちに民権派がこの条文を政治参加の根拠とする時にも、そのように解釈された。同時代でも作成者の意図と受け止められ方が違っていた。

【天聖の誓いのあとには、総裁、公卿、諸侯がこれに賛成して決死の覚悟で努力するといふ誓いが記され、それぞれが署名した。そこからどのようなことが約束されるのだろうか。】

新政府を支えることを約束する誓約書としての意味をもっていることがわかる。当初新政府に抵抗した藩の藩主も、降伏後に署名した。また、旧藩府の藩主も署名した。新政府が藩府に一方で、国内を治めるには諸侯(藩主、旧大名)の支持を必要とした。かつて、「会盟」の形式がとれず、「列侯會議」の語が削除されたことから明らかとなるように、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【国会開設請願書での五箇条の誓文を確認してみよう。】
国会開設請願書は板垣退助監修「自由党史」にある。「国会開

設スル可カラ願スル書」(ともに国立国会図書館デジタルコレクション)で確認できる。第一に天皇親政を提議し、第二に国民の一致と愛国をうながす手段として国会開設の必要を説いたあとに、御誓文の五箇条すべてを国会開設に結びつけて論じる。例え最後の条に關しては「今世に在りて国会を開くことは便ち世界の首を学ぶ所以にして之を開くことは世界の首を棄てしむるを棄てざるを為すべく而して皇基を振起すも亦即ち国会を開く人民の愛国心を発せしめ及び全国一致するに非ざれば能はざる可ければ也」とある。なお、御誓文も引用され、国会開設に結びつけられ、もちろん漸次立憲政体樹立の詔も引用される。

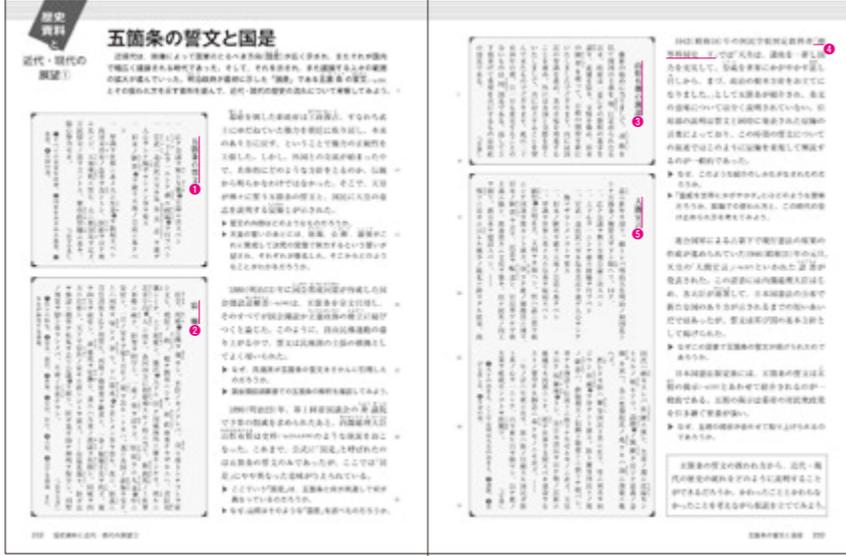
【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。

【解説】山県有朋の演説
第1回帝國議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年2月16日衆議院議事速記第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝國議会議事録検索システム」で参照できる。当時の多数の明治天皇の勅諭に示されているのが国是だとして、その実現にかつて、有力大名の同意なくして政権が成立したのではなく、彼らも公卿や小領主とともに天皇に向って署名したのだ。



【解説】初等科国史 下
国民学校と呼ばれる当時の小学校の6年生が用いた教科書で、戦時下でも皇国史観の影響が強くなった時期に教えられた日本史を示す。紙幅の都合から教科書には載せていないが、国立国会図書館デジタルコレクションや国立教育政策研究所の近代教科書デジタルアーカイブでみられる。誓文は小学校の国定国史教科書で従来から取り上げられていたが、1921年版では引用部に当たる誓文制定の目的は「維新の政を盛んに万民を安んぜんがため」と説明されていた。

【なぜ、このような紹介のしかたがなされたのだろうか。】
誓文は明治天皇が示した国是であるから教科書に載せざるをえなかったが、国家主義的な戦争遂行体制の中で、(1)の合議制、(3)の国民の幸福追求、(4)の世界の普遍的価値意識や(5)の外国知識の導入は肯定的に教えられべきものではなくなっていた。一方、天皇の下で国力を増強し、海外に進出することが明治初年以降の国家の目標であったと説明することが望ましかったため。

【なぜ、世界にいかやがす? とどのような意味だろうか。】
宸翰では、古代に「國威海外に播きしむる」としての意で、朝鮮半島への出兵を踏まえている可能性もあるが、今後の「万里の波瀾を拓開し、國威を四方に宣布し」は、主題が天聖であることと考えれば、天皇が海外を拓ける。あるいは日本人が海外で活躍し軍艦を含む日本の船が世界を航海することを指しているようにも読める。いずれにせよ、1868(明治元年)には、末尾のように「神州(日本)を保全」することが当面の目標であった。1943年には、アジア・太平洋地域に広く日本軍が展開している現状を背景に、海外への軍事進出が維新の目標であったと語られていた。

【解説】人間宣言書
占領下でマッカーサー率いる連合国軍総司令部と常務審判部内閣の合意によって出された日本の民主化とその中で天皇の地位についての基本を示す宣言書。昭和天皇は誓文を認否し編み込んだのはみずから意志によるものであったと回想しているが(1977年8月3日記者会見)、常務前10月の閣議直後に誓文の精神に則った民主主義政治の樹立を政策目標として発表していた。

【なぜこの語彙で五箇条の誓文が掲げられたのだろうか。】
小学校教育により国民に知れ選った誓文の精神として民主化や国際協調を説くことにより、それらが古語軍に強制されるのではなく、維新期から日本の目指してきた道であると示すため。また、神に誓ったのではなく「御誓文を下し給へり」とすることで、天皇が国民のことを考え、国民と信頼関係を築いてきたことを示すため。

【なぜ、五條の誓文が合せて取り上げられるのだろうか。】
明治政府が、開明的な面と同時に、民衆に対して従来の支配体制を引き継ぐ面をもつていたことを示し、戦後の民主化の必要性を理解されており、誓文、宸翰、五條の誓文は諸藩に対して同時に示されており、歴史的には3つを合わせて意味を考えると適切である。

【変わったこと、変わらないこと。】
国民の権利を認め、国際社会で諸外国と交流しつつ、一体となって国力を増強をはかる国民国家の形成が維新の目標であり、誓文はそれをよく示していた。それゆえ、誓文は、国民国家のかたちを整える憲法制定・国会開設までは、民権派が政府の専制を攻撃する根拠ともなった。国民国家のかたちが整った、誓文以外の「国是」の定義が試みられ、日本民族の優越性を主張することで対外侵略が正当化され、また国家目標を達成するためには個人の権利が制限されて当然と考えられた時代には、誓文に無理な解釈がなされたり、解釈が放棄されたりした。しかし、天皇が掲げた国是である以上、忘れられることはなく、戦後には平和国家として日本を立ち立てるために表裏から立てられた。近代の歴史は国民国家の形成・成長という観点からとらえることができるが、それだけではとらえきれないことも、誓文の扱われ方から理解できる。

【参考文献】大塚桂「五箇条の御誓文・再考」(駒沢大学法学部研究紀要) 64、2006年、駒沢大学学術機関リポジトリで公開

五箇条の誓文と国是 247

歴史資料

近代・現代の展望②

貿易の変遷からみる日本の近代・現代

開港後には貿易が国内経済に大きな影響をおよぼし、貿易は国を富ませるために輸出超過が、少なくとも輸出入の均衡を求めて必要な措置をとった。日本の経済構造は、産業革命、世界大戦、高度経済成長、その後の脱工業化と変容を繰り返したが、輸出主導の構成から、それを模倣することができる。時期を隔てて対比する、原料・燃料と工業製品の別対立関係を考える、といったグラフの読み取り方を学びつつ、産業の変化の過程を考察する。

【解説】1865(慶応元年)
開港から5年ほどたった、貿易による国内産業の活性化が生じている。大量の生糸輸出が、それを目的とした蚕糸が活発に生じたことを示す。蚕糸は蚕を飼育して繭を繻きつけた繭で、明治初年まで蚕の流行病に苦しんでいたフランスやイタリアで養蚕に用いられた。

【輸入の産業革命の影響がよみとらえられる。】
輸入は欧産の織物が多い。国内で用いられていた織物とまったく同質のものが安く供給されたわけではない。細い機械紡績で織られた綿糸の自給率、毛織物の強さや風合などが好まれたが、それらが安価に供給されて日本でも多くの需要を獲得したのは、産業革命によって機械を活用して大量生産されたからである。生糸の輸出でも、産業革命による消費の拡大が背景である。

【解説】1885(明治18年)
この翌年から、綿紡績業と鉄道業を中心に日本の産業革命が始まる。この時点で官営事業や外国人技術者を雇った経営を除いては、従来の技術で貿易に対応した生産がなされていた。一方で近代技術の活用は、石灰や鋼の輸出に反映している。

【輸入の首位が綿糸である理由③】
国内で、輸入綿糸を用いた織物が織られたためである。和服に用いられた小幡綿糸は先産国で生産されておらず、輸入糸を用いて、日本人の好みであった色、柄で手作業で織られた。ヨーロッパから導入された飛び付(ボタン)が一部で利用された生産性を高めたが、動力は用いられず、農家の副業が中心であった。なお綿糸輸入先はイギリスが過半であるが、1870年から英領インドで機械紡績が急増したためインド綿が4割を占める。

【砂糖や石油の輸入増の理由④】
砂糖は国産品より安価であり、価格低下で国内消費が増加した。菓子類に使われたほか、日常の料理の味付けにも影響したと考えられる。石油はほとんどが灯油で、ランプとの組み合わせで、従来の行灯などより明るく照らして広まった。ともに、貿易の拡大でたけなない範囲の人々の暮らしに影響があったことを意味している。

【解説】1899(明治32年)
紡績業と鉄道業を中心とする産業革命が進行し、1900年には機械紡績の過剰生産を一時とする恐慌が発生する。その直前の状況で、工業原料の棉花のほか、機械や鉄道の輸入が多いは紡績機械や機関車から鉄道のレールまで輸入されたため、重工業の発展の遅れを物語る。なお、陸海軍の軍艦・兵器等は1865年のグラフでは機械類の中に含まれるが、以後は戦前を通じて貿易統計に含まれない。

【綿糸が輸出品に転じ、棉花が輸入品の首位になったことの意味⑤】
綿糸の輸出は1890年に輸入を上回った。綿紡績業が、原料の棉花を輸入したる機械工業として確立し、日本が原料を輸入して機械工業を生産をおこなない製品を輸出する工業国の面をもち始めたことにつながる。

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

【解説】1935(昭和10年)
第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに2組のグラフを加えるのが最善だが、教科書では紙幅の関係で果てなせなかった。

【解説】1935(昭和10年)
1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、襦袢など。「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた煙草、花菱、魚介類、昆布、蜜柑など。「雑品」は、木材、木製品、花菱、真田、ゴム製品、セルロイド、プラスチック、豆電球、トランプ、玩具、肥料などである。なお輸入の羊糸は95%がオーストラリア産で、肉類の貿易の拡大にも注目している。

教科書には掲載できなかった1918年、1926年を同様の分類で示す。1918年は機械・船舶の輸出のみならず、鉄道の輸出が拡大している。輸出の「穀物類」は「穀物類及粉類及種子」でこの年の約半分が低コスト豆とインゲン豆であり、薯蕷とともに大戦で農業生産力が低下した欧米に輸出された。大戦期の特需は農業は米もオ

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

貿易の変遷からみる日本の近代・現代 248

貿易の変遷からみる日本の近代・現代

【解説】1865(慶応元年)
開港から5年ほどたった、貿易による国内産業の活性化が生じている。大量の生糸輸出が、それを目的とした蚕糸が活発に生じたことを示す。蚕糸は蚕を飼育して繭を繻きつけた繭で、明治初年まで蚕の流行病に苦しんでいたフランスやイタリアで養蚕に用いられた。

【輸入の産業革命の影響がよみとらえられる。】
輸入は欧産の織物が多い。国内で用いられていた織物とまったく同質のものが安く供給されたわけではない。細い機械紡績で織られた綿糸の自給率、毛織物の強さや風合などが好まれたが、それらが安価に供給されて日本でも多くの需要を獲得したのは、産業革命によって機械を活用して大量生産されたからである。生糸の輸出でも、産業革命による消費の拡大が背景である。

【解説】1885(明治18年)
この翌年から、綿紡績業と鉄道業を中心に日本の産業革命が始まる。この時点で官営事業や外国人技術者を雇った経営を除いては、従来の技術で貿易に対応した生産がなされていた。一方で近代技術の活用は、石灰や鋼の輸出に反映している。

【輸入の首位が綿糸である理由③】
国内で、輸入綿糸を用いた織物が織られたためである。和服に用いられた小幡綿糸は先産国で生産されておらず、輸入糸を用いて、日本人の好みであった色、柄で手作業で織られた。ヨーロッパから導入された飛び付(ボタン)が一部で利用された生産性を高めたが、動力は用いられず、農家の副業が中心であった。なお綿糸輸入先はイギリスが過半であるが、1870年から英領インドで機械紡績が急増したためインド綿が4割を占める。

【砂糖や石油の輸入増の理由④】
砂糖は国産品より安価であり、価格低下で国内消費が増加した。菓子類に使われたほか、日常の料理の味付けにも影響したと考えられる。石油はほとんどが灯油で、ランプとの組み合わせで、従来の行灯などより明るく照らして広まった。ともに、貿易の拡大でたけなない範囲の人々の暮らしに影響があったことを意味している。

【解説】1899(明治32年)
紡績業と鉄道業を中心とする産業革命が進行し、1900年には機械紡績の過剰生産を一時とする恐慌が発生する。その直前の状況で、工業原料の棉花のほか、機械や鉄道の輸入が多いは紡績機械や機関車から鉄道のレールまで輸入されたため、重工業の発展の遅れを物語る。なお、陸海軍の軍艦・兵器等は1865年のグラフでは機械類の中に含まれるが、以後は戦前を通じて貿易統計に含まれない。

【綿糸が輸出品に転じ、棉花が輸入品の首位になったことの意味⑤】
綿糸の輸出は1890年に輸入を上回った。綿紡績業が、原料の棉花を輸入したる機械工業として確立し、日本が原料を輸入して機械工業を生産をおこなない製品を輸出する工業国の面をもち始めたことにつながる。

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

【解説】1935(昭和10年)
第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに2組のグラフを加えるのが最善だが、教科書では紙幅の関係で果てなせなかった。

【解説】1935(昭和10年)
1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、襦袢など。「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた煙草、花菱、魚介類、昆布、蜜柑など。「雑品」は、木材、木製品、花菱、真田、ゴム製品、セルロイド、プラスチック、豆電球、トランプ、玩具、肥料などである。なお輸入の羊糸は95%がオーストラリア産で、肉類の貿易の拡大にも注目している。

教科書には掲載できなかった1918年、1926年を同様の分類で示す。1918年は機械・船舶の輸出のみならず、鉄道の輸出が拡大している。輸出の「穀物類」は「穀物類及粉類及種子」でこの年の約半分が低コスト豆とインゲン豆であり、薯蕷とともに大戦で農業生産力が低下した欧米に輸出された。大戦期の特需は農業は米もオ

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

【解説】1935(昭和10年)
第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに2組のグラフを加えるのが最善だが、教科書では紙幅の関係で果てなせなかった。

【解説】1935(昭和10年)
1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、襦袢など。「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた煙草、花菱、魚介類、昆布、蜜柑など。「雑品」は、木材、木製品、花菱、真田、ゴム製品、セルロイド、プラスチック、豆電球、トランプ、玩具、肥料などである。なお輸入の羊糸は95%がオーストラリア産で、肉類の貿易の拡大にも注目している。

教科書には掲載できなかった1918年、1926年を同様の分類で示す。1918年は機械・船舶の輸出のみならず、鉄道の輸出が拡大している。輸出の「穀物類」は「穀物類及粉類及種子」でこの年の約半分が低コスト豆とインゲン豆であり、薯蕷とともに大戦で農業生産力が低下した欧米に輸出された。大戦期の特需は農業は米もオ

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

【解説】1935(昭和10年)
第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに2組のグラフを加えるのが最善だが、教科書では紙幅の関係で果てなせなかった。

【解説】1935(昭和10年)
1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、襦袢など。「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた煙草、花菱、魚介類、昆布、蜜柑など。「雑品」は、木材、木製品、花菱、真田、ゴム製品、セルロイド、プラスチック、豆電球、トランプ、玩具、肥料などである。なお輸入の羊糸は95%がオーストラリア産で、肉類の貿易の拡大にも注目している。

教科書には掲載できなかった1918年、1926年を同様の分類で示す。1918年は機械・船舶の輸出のみならず、鉄道の輸出が拡大している。輸出の「穀物類」は「穀物類及粉類及種子」でこの年の約半分が低コスト豆とインゲン豆であり、薯蕷とともに大戦で農業生産力が低下した欧米に輸出された。大戦期の特需は農業は米もオ

【解説】1913(大正2年)
第一次世界大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。教科

書p.284の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上だった砂糖が、台湾での生産で代替されつつあること、また米も輸入とともに種苗地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万である。

【解説】1935(昭和10年)
第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに2組のグラフを加えるのが最善だが、教科書では紙幅の関係で果てなせなかった。

【解説】1935(昭和10年)
1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、襦袢など。「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた煙草、花菱、魚介類、昆布、蜜柑など。「雑品」は、木材、木製品、花菱、真田、ゴム製品、セルロイド、プラスチック、豆電球、トランプ、玩具、肥料などである。なお輸入の羊糸は95%がオーストラリア産で、肉類の貿易の拡大にも注目している。

246 歴史資料と近代・現代の展望①

* 歴史資料と各時代の展望のページは、充実した解説を付し、生徒が資料を活用した考察・表現をしやすい授業が展開できるよう工夫しました。

- ①ねらい 取り上げた資料を扱う「ねらい」を示しました。
②解説 取り上げた資料を、詳しく解説しています。
③問の解答例 教科書中の問いかけに対する考え方や解答例を示しています。
④まとめ 資料を用いておこなった考察のまとめを示しています。
⑤教科書画像 教科書の縮小画像に番号を付し、教科書と解説や問の解答例との対応を示しました。

日本史探究教科書共通

教師用指導書 研究編

B5判・480頁・1色刷 定価5,500円(10%税込)

山川出版社の日本史探究教科書で共通して

ご使用いただけます。教科書の構成に沿って、教科書に記述されている歴史事象やその

背景、史料・図版の見方などについて、詳しく解説します。

教師用指導書 授業実践編 付属データ集

日探705準拠



『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご活用ください。

付属データ集DVD-ROM 収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑦授業用スライド	PowerPoint	教科書の章ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑧授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑨準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルブリック(評価規準表)例付き
	⑩準拠ノート	PDF Word	『詳説日本史授業用整理ノート』の紙面データ
	⑪白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

①教科書紙面 PDF ②本文・注・史料テキスト Word ③地図・図表 JPEG

教科書の紙面PDF、本文・史料のテキストデータ、地図・図表データを収録しています。プリントやスライドの作成などにご活用いただけます。

1 日本文化のあけぼの

大陸から日本列島に渡ってきた人々によって、日本列島の人類史は幕を開けた。旧石器時代から縄文時代、弥生時代と移行していく中で、自然環境に適応しつつ、定住生活や農耕生活が営まれていった。日本列島の自然環境はどのように変化したか、人々の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。

1 文化の始まり

地球上に人類が誕生したのは、今からおよそ700万年前にさかのぼる。人類は化石人類の研究によって、猿人・原人・旧人・新人の順に出現したことが知られている。猿人を代表するのはおよそ40万年前以降にアフリカ大陸の各地で出現したアストラロピテクスであり、それ以降およそ250万年前に猿人から猿人が分岐し、およそ35万年前にネアンデルタール人に代表される旧人が生まれ、30万～25万年前にアフリカ大陸で新人(ホモ・サピエンス)が現れて、世界各地に広まった。われわれ現代人は新人と同じ種に属する。

人類は地質学という第三紀の「中生代の終わりに近づく第四紀を通じて発展したが、第四紀はおよそ1万年前を境に更新世と完新世に区分される。更新世は家畜時代とも呼ばれ、家畜や家畜と比較的近

更新世末期の日本列島 更新世末期の日本列島は、更新世末期の更新世の末期には、列島と朝鮮半島の間に、本州と北海道の海峡が形成され、本州と北海道の間に海峡が形成された。更新世末期には、本州と北海道の間に海峡が形成された。

更新世末期の日本列島 更新世末期の日本列島は、更新世末期の更新世の末期には、列島と朝鮮半島の間に、本州と北海道の海峡が形成され、本州と北海道の間に海峡が形成された。更新世末期には、本州と北海道の間に海峡が形成された。

更新世末期の日本列島 更新世末期の日本列島は、更新世末期の更新世の末期には、列島と朝鮮半島の間に、本州と北海道の海峡が形成され、本州と北海道の間に海峡が形成された。更新世末期には、本州と北海道の間に海峡が形成された。

⑦授業用スライド PowerPoint

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 学習のポイントを明示し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせて編集が可能です。

9 旧石器時代に使用された石器

旧石器時代の人々は、**狩猟**と植物性食料を**採集**する生活を送っていた。狩猟には**ナイフ形石器**や**尖頭器**が、旧石器時代の終わり頃には**細石器**が用いられ、大型動物の捕獲に利用された。

6 農具

耕作具(鍬・鋤)、収穫具(石包丁)、脱穀具(木臼・竝杵)などが使用され、収穫物は貯蔵施設(**高床倉庫**・貯蔵穴)におさめられた。後期には、石器にかわって刃先に鉄器をつ

読みといてみよう

3世紀の倭人の社会や習俗をはじめ、邪馬台国連合に関する情報を史料から読み取り、説明してみよう。

⑧授業用スライド対応ワークシート Word

授業用スライドに対応したワークシートもご用意しています。

ワークシート
詳説日本史 p. 6 ~ 19

◆旧石器人の生活

8 旧石器時代の文化の発見
相沢忠洋によって関東ローマ層から石器が発見されたことを機に(**岩宿遺跡**)と(**岩宿遺跡**)が発見され、旧石器時代の文化の存在が明らかになった。

9 旧石器時代に使用された石器
旧石器時代の人々は、(**狩猟**)と植物性食料を(**採集**)する生活を送っていた。狩猟には(**ナイフ形石器**)や(**尖頭器**)が、旧石器時代の終わり頃には(**細石器**)が用いられ、大型動物の捕獲に利用された。

◆縄文文化の成立

11 環境の変化
約1万年前、地球の温暖化とともに海面が上昇してほぼ現在に近い日本列島が成立した。約1万年前、地球の温暖化とともに海面が上昇してほぼ現在に近い日本列島が成立した。約1万年前、地球の温暖化とともに海面が上昇してほぼ現在に近い日本列島が成立した。

12 縄文文化の成立
約1万6000年前に成立した(**縄文文化**)の特徴は、食料を煮るための土器、(**土器**)と(**土器**)の出現などである。

13 世界最古級の土器 縄文土器
表面に縄を転がした文様をもつ(**縄文土器**)の変化によって、縄文時代は6期に分類される。縄文土器の出現は、縄文時代は6期に分類される。縄文土器の出現は、縄文時代は6期に分類される。

◆縄文人の生活と信仰

14 縄文人の自然への働きかけ
植物性食料の重要性が高まるにあわせ、木の葉の採集、クリ林の増殖、マメ類の栽培など、その道具として石、土、石、土、石、土などが使われた。

ワークシート
詳説日本史 p. 6 ~ 19

9 祭祀
弥生時代は青銅製祭器(**銅鐃** ・ **銅剣** ・ **銅矛** ・ **銅戈**)を用いて祭祀がおこなわれていた。これは共通の祭器を用いる地域圏が形成されていたことを示している。

◆小国の分立

10 「クニ」の成立
余剰生産物をめぐる戦いの発生にともない、防衛施設を備えた集落(**環濠集落** ・ **高地性集落**)が出現し、政治的まとまりである「 **クニ** 」が分立していった。

11 『漢書』地理志の記述
中国の歴史書である(**『漢書』地理志**)には、「倭人」の社会は100余国にわかれ、(**菟瀨郡**)に朝貢していたことが記述されている。

12 『後漢書』東夷伝の記述
(**『後漢書』東夷伝**)には、奴国の王が後漢の光武帝から印綬を受けたことが記述されている。これは江戸時代に福岡県志賀郡で見られた(**金印**)と考えられている。

◆邪馬台国連合

13 『魏志』倭人伝の記述
(**『魏志』倭人伝**)によると、(**邪馬台国**)の(**卑弥呼**)が倭国の争乱をおさめ、小国連合が生まれた。卑弥呼は魏の皇帝から「**親魏倭王**」の称号と金印を贈られ、呪術的権威を背景に政治をおこなった。

読みといてみよう

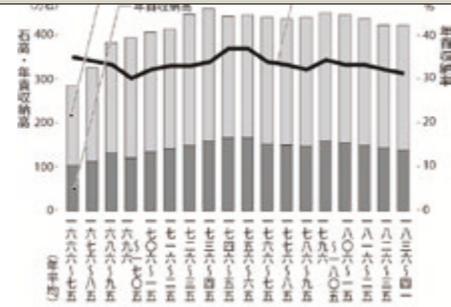
3世紀の倭人の社会や習俗をはじめ、邪馬台国連合に関する情報を史料から読み取り、説明してみよう。

- 倭人の社会には大人や下戸という身分があり、税の仕組みも存在し、国々の市では交易がおこなわれていた。
- 男子は年齢を問わず、鬚や髭をいれずみをしていた。

9 準拠テスト例 Word

<1章ごとにA4判約10枚収録>

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- さまざまなパターンの出題形式を用意しています。



私は、8代将軍徳川吉宗がおこなった享保の改革について調べてきました。吉宗就任当時の幕府の課題は「米価安の諸色高」といわれた米の価格に比べてほかの生産物の価格が高いという財政状態がありました。吉宗はこれに対して諸政策を出していきました。続発する金銀貸借の争いについては、(①)を出し、当事者間で解決をさせました。そのほか、新田開発、検見法から(②)への変更、上げ米などが諸政策としてあげられます。資料にあるように、【 3 】この学習を通じて、その後の田沼政治との違いに興味をもったので、さらに調べていきます。以上で発表を終わります。

問1 発表文中の空欄①②に入る適語を答えよ。【知識・技能】

問2 発表文中の【 3 】に入る文章X・Yの正誤の組合せとして、正しいものを選び。【思考・判断・表現】

X 石高・年貢取納高ともに上昇傾向となりました。それは享保の改革中ずっと続いた上げ米の効果が大きいといえます。結果として、石高・年貢取納高の両方で幕政史上最高の数字となりました。
 Y 商人資本の力を借りた新田開発を進めたことで、享保の改革の時に幕領の石高は上昇を続けました。米の増産を奨励したことで、石高に対する年貢取納率も江戸時代を通じて増加を続け、財政面の課題の解消につながりました。
 ア X-正 Y-正 イ X-正 Y-誤 ウ X-誤 Y-正 エ X-誤 Y-誤

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのかわを示しています。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック(評価規準表)例」を収録しました。A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
知識・技能	幕藩体制の動揺に対する諸改革、近世中期～後期の文化の展開と政治・経済との関係について総合的にとらえて理解しているとともに、複数の資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	幕藩体制の動揺に対する諸改革、近世中期～後期の文化の展開と政治・経済との関係について理解しているとともに、複数の資料から情報を調べまとめる技能を身につけている。	幕藩体制の動揺に対する諸改革、近世中期～後期の文化の展開と政治・経済との関係についての理解や、資料から情報を調べまとめる技能が十分に身につけていない。
思考・判断・表現	幕藩体制の動揺に対する諸改革や諸藩の動向、国際情勢の変化とその対応に関わる諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制の動揺に対する諸改革や諸藩の動向、国際情勢の変化とその対応に関わる諸事象について、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制の動揺に対する諸改革や諸藩の動向、国際情勢の変化とその対応に関わる諸事象について、資料の読み取りが不十分で、適切な考察にもとづき表現していない。
主体的に学習	幕藩体制の動揺、近世中期～後期の文化の展開について、みずから関心をもって学習に取り組む、振り返りを効果的に活用している。	幕藩体制の動揺、近世中期～後期の文化の展開について、みずから関心をもって学習に取り組む、振り返りを活用している。	幕藩体制の動揺、近世中期～後期の文化の展開について、学習への取り組みが不十分で、振り返りを活用できていない。

10 準拠ノート PDF Word

- 『詳説日本史授業用整理ノート』の紙面データは、PDFとWordの2種類を収録しました。

PDF

古墳とヤマト政権

1 古墳文化の展開

古墳の出現とヤマト政権

1 大規模古墳の出現

a 大規模古墳の出現: 3世紀中頃～後半、西日本中心

b 出現期の古墳の特徴

(1)形態: (●)前方後円墳、前方後方墳

(2)埋葬施設: (●)石室(長大な木棺をおさめる)

(3)副葬品: 呪術的(多数の(●)銅鏡)など

画一的な特徴=各地の豪族の共通の墓制(広域の政治連合の形成)

2 ヤマト政権の成立

出現期の最大前方後円墳は大和(奈良県)にみられる: (●)古墳

→政治連合の中心は大和地方=(●)ヤマト政権

*古墳は東北地方南部まで波及(4世紀中頃): 東日本をヤマト政権に組み込む

3 前期・中期古墳

1 前期・中期古墳の特徴

(1)墳形: 前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳など

*数が多いのは円墳・方墳、大規模なものは前方後円墳

(2)墳丘上: (●)円筒埴輪・家形埴輪・器埴輪

(3)その他: 墳丘斜面に(●)石、墳丘周囲に(●)埴輪

(1)埋葬施設: 壙穴式石室(木棺・石棺をおさめる)、最上層

*後期は(●)が増加

(2)副葬品

(前期)鉄製武器・農具、銅鏡(三角縁神獣鏡など)、陶製石製品

→呪術的・宗教的色彩が強い(●)司祭者の性格の豪族

(中期)鉄製の武器・農具が増加、馬具

→後継者の(●)的性格が強まる

2 中期の巨大古墳

a 近畿中央部

最大規模: 大和府の(●)古墳(仁徳天皇陵古墳) *2~3重の周濠、周濠に陪家

第2位の規模: 大和府の磐田御山古墳(応神天皇陵古墳)

5世紀のヤマト政権の大王墓

Word

第2章 古墳とヤマト政権

1 古墳文化の展開

●古墳の出現とヤマト政権

1 大規模古墳の出現

a 大規模古墳の出現: 3世紀中頃後半、西日本中心

b 出現期の古墳の特徴

(1)形態: (●)前方後円墳、前方後方墳

(2)埋葬施設: (●)壙穴式石室(長大な木棺をおさめる)

(3)副葬品: 呪術的(多数の(●)銅鏡)など

画一的な特徴=各地の豪族の共通の墓制(広域の政治連合の形成)

2 ヤマト政権の成立

出現期の最大前方後円墳は大和(奈良県)にみられる: (●)古墳

→政治連合の中心は大和地方=(●)ヤマト政権

*古墳は東北地方南部まで波及(4世紀中頃): 東日本をヤマト政権に組み込む

●前期・中期古墳

1 前期・中期古墳の特徴

(1)墳形: 前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳など

*数が多いのは円墳・方墳、大規模なものは前方後円墳

a 外観

(2)墳丘上: (●)埴輪(円筒埴輪・家形埴輪・器埴輪)

(3)その他: 墳丘斜面に(●)石、墳丘周囲に(●)埴輪

(1)埋葬施設: 壙穴式石室(木棺・石棺をおさめる)、粘土椀

*後期は(●)が増加

(2)副葬品

(前期)鉄製武器・農具、銅鏡(三角縁神獣鏡など)、陶製石製品

→呪術的・宗教的色彩が強い(●)司祭者の性格の豪族

(中期)鉄製の武器・農具が増加、馬具

→後継者の(●)的性格が強まる

2 中期の巨大古墳

a 近畿中央部

最大規模: 大和府の(●)古墳(仁徳天皇陵古墳) *2~3重の周濠、周濠に陪家

第2位の規模: 大和府の磐田御山古墳(応神天皇陵古墳)

5世紀のヤマト政権の大王墓

11 白地図集 JPEG

- プリントなどの作成に便利な白地図データは、プリント用・黒板用の2種類を収録しました。



詳説日本史ノート

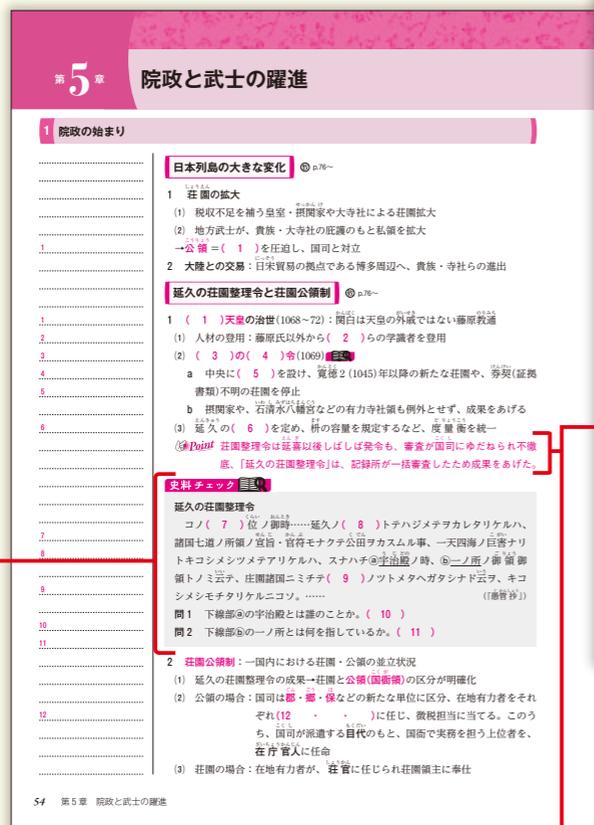
日探705準拠

B5判・256頁＋解答20頁・2色刷 定価1,100円（10%税込） ISBN978-4-634-02231-7

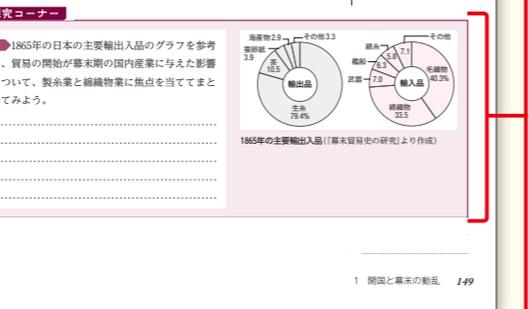
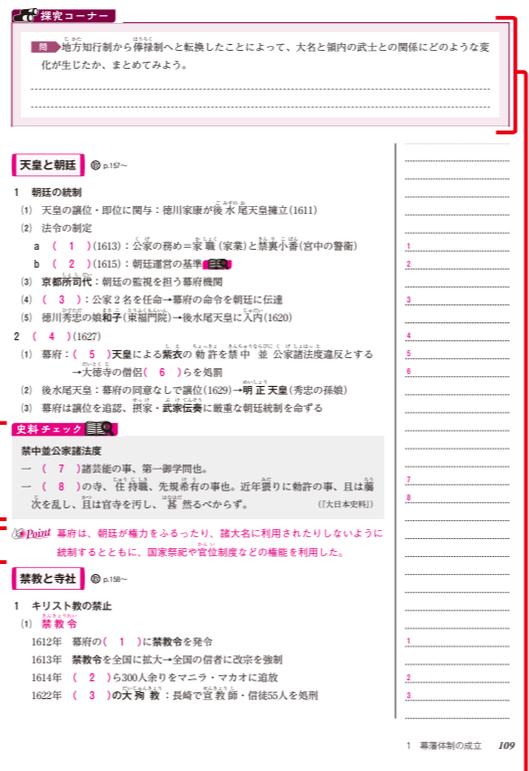
- 自学自習用の書込式ノートです。教科書の内容を穴埋め形式で整理しています。
- 史料の要点をおさえる「史料チェック」や理解と考察を深める「探究コーナー」を設けました。

見開き両脇を解答欄としています。

「史料チェック」は、教科書掲載のものを中心に史料を取り上げています。



適宜、学習上のポイントを解説しています。



「探究コーナー」では、図版・グラフなどの読み取り問題や学習内容をより深められる問題を設けています。

ご採用特典として

- ① 本文テキストデータ (Word)
 - ② 解答あり＆解答なしの書籍紙面データ (PDF)
- ※書籍紙面データには、許諾上の理由から写真は掲載していません。をご提供いたします。



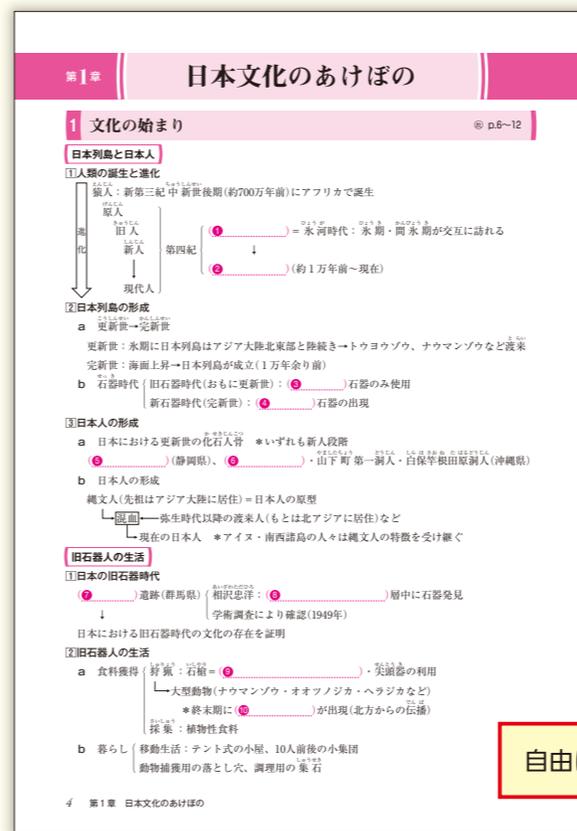
詳説日本史授業用整理ノート

日探705準拠

B5判・248頁＋解答32頁・2色刷 定価946円（10%税込） ISBN978-4-634-02232-4

- 授業用の書込式ノートです。様々な授業スタイルを想定して、シンプルな構成にしました。
- 左頁では、思考のベースとなる知識を確認します。→①
- 右頁では、教科書に掲載されている問い(Q)や「読みといてみよう」、章のまとめの問いに取り組みます。→②

①教科書の内容をわかりやすくまとめています。穴埋め形式で、重要語句の確認ができます。

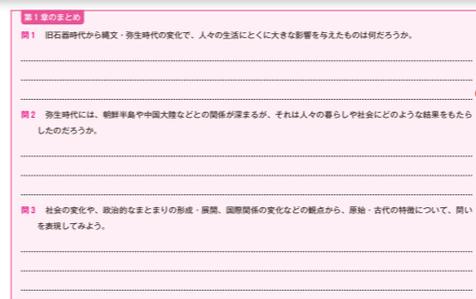


Q1 現在の日本人は、どのようにして形成されたのだろうか。

Q2 旧石器時代の人々は、どのようにして食料を確保していたのだろうか。

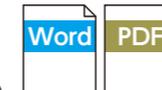
自由に使えるノート欄を設けています。

②教科書に掲載されている問い(Q)や「読みといてみよう」、章のまとめに対応した解答欄を設けています。



ご採用特典として

- ① 本文テキストデータ (Word)
 - ② 解答あり＆解答なしの書籍紙面データ (PDF)
- をご提供いたします。



山川詳説日本史図録 第10版

日探705準拠

AB判 376頁 4色刷 定価990円(10%税込) ISBN978-4-634-02531-8

- 『詳説日本史』(日探705)に準拠した図録です。教科書の章・節・小見出しに沿って構成されています。
- 「資料を読みとく」ページを設けました。大学入学共通テストを意識しつつ、複数の資料を段階的に考察します。
- 資料を読む視点として、見開きごとに頁の下にQ&Aを設けました。
- 掲載の2次元コードから、画像や動画のコンテンツを参照できます。



項目のまとめとして、ページの冒頭に年表や模式図を示しました。

写真約2500点、図版約1200点。教科書に掲載できなかった写真・図版をカバーするよう、配慮しています。

214 公武合本と尊攘運動③、幕府の滅亡

1 幕末の動き

2 長州藩の動き

3 長州征討(第2次)

4 幕府の滅亡

5 坂本龍馬と「船中八策」

6 大政奉還

7 小御所会議

8 大政奉還

9 大政奉還

10 大政奉還

11 大政奉還

12 大政奉還

13 大政奉還

14 大政奉還

15 大政奉還

16 大政奉還

17 大政奉還

18 大政奉還

19 大政奉還

20 大政奉還

21 大政奉還

22 大政奉還

23 大政奉還

24 大政奉還

25 大政奉還

26 大政奉還

27 大政奉還

28 大政奉還

29 大政奉還

30 大政奉還

31 大政奉還

32 大政奉還

33 大政奉還

34 大政奉還

35 大政奉還

36 大政奉還

37 大政奉還

38 大政奉還

39 大政奉還

40 大政奉還

41 大政奉還

42 大政奉還

43 大政奉還

44 大政奉還

45 大政奉還

46 大政奉還

47 大政奉還

48 大政奉還

49 大政奉還

50 大政奉還

51 大政奉還

52 大政奉還

53 大政奉還

54 大政奉還

55 大政奉還

56 大政奉還

57 大政奉還

58 大政奉還

59 大政奉還

60 大政奉還

61 大政奉還

62 大政奉還

63 大政奉還

64 大政奉還

65 大政奉還

66 大政奉還

67 大政奉還

68 大政奉還

69 大政奉還

70 大政奉還

71 大政奉還

72 大政奉還

73 大政奉還

74 大政奉還

75 大政奉還

76 大政奉還

77 大政奉還

78 大政奉還

79 大政奉還

80 大政奉還

81 大政奉還

82 大政奉還

83 大政奉還

84 大政奉還

85 大政奉還

86 大政奉還

87 大政奉還

88 大政奉還

89 大政奉還

90 大政奉還

91 大政奉還

92 大政奉還

93 大政奉還

94 大政奉還

95 大政奉還

96 大政奉還

97 大政奉還

98 大政奉還

99 大政奉還

100 大政奉還

見開きごとにページの下にQ&Aを設けています。

ご採用特典として

生徒用には重要な史料を網羅した別冊「日本史頻出史料165」をご提供します。また、先生向けには、プリント作成に便利な、史料のテキストデータ(205点、Word)、日本史白地図データ(36点、JPEG)をご用意しています。

Word JPEG

詳説日本史10分間テスト

日探705準拠

A5判 164頁+解答24頁 2色刷 定価770円(10%税込) ISBN978-4-634-02241-6

- 『詳説日本史』(日探705)の内容を79テーマに分け、教科書に記載された基本事項を20問の1問1答形式のテストで確認します。
- 右ページの「補充・復習」は、地図・表形式の問題など追加の関連問題で構成しています。
- テストや課題だけでなく、生徒の予習・復習や受験前の総まとめにも最適です。



Step1

左ページの「10分間テスト」では、短時間で、基本的な知識を確認できます。問題数は20問。

学習した日付や解けた問題数の記入、チェック欄など、さまざまな使い方が可能です。

問題文中の重要事項を赤字にしています。

25 第7章 1室町幕府の成立(1)

1 1333年(建武中興)の失敗

2 1336年(建武中興)の失敗

3 1336年(建武中興)の失敗

4 1336年(建武中興)の失敗

5 1336年(建武中興)の失敗

6 1336年(建武中興)の失敗

7 1336年(建武中興)の失敗

8 1336年(建武中興)の失敗

9 1336年(建武中興)の失敗

10 1336年(建武中興)の失敗

11 1336年(建武中興)の失敗

12 1336年(建武中興)の失敗

13 1336年(建武中興)の失敗

14 1336年(建武中興)の失敗

15 1336年(建武中興)の失敗

16 1336年(建武中興)の失敗

17 1336年(建武中興)の失敗

18 1336年(建武中興)の失敗

19 1336年(建武中興)の失敗

20 1336年(建武中興)の失敗

補充・復習

1 1333年(建武中興)の失敗

2 1336年(建武中興)の失敗

3 1336年(建武中興)の失敗

4 1336年(建武中興)の失敗

5 1336年(建武中興)の失敗

6 1336年(建武中興)の失敗

7 1336年(建武中興)の失敗

8 1336年(建武中興)の失敗

9 1336年(建武中興)の失敗

10 1336年(建武中興)の失敗

11 1336年(建武中興)の失敗

12 1336年(建武中興)の失敗

13 1336年(建武中興)の失敗

14 1336年(建武中興)の失敗

15 1336年(建武中興)の失敗

16 1336年(建武中興)の失敗

17 1336年(建武中興)の失敗

18 1336年(建武中興)の失敗

19 1336年(建武中興)の失敗

20 1336年(建武中興)の失敗

Step4

「10分間テスト」と右ページの「補充・復習」の各問題にはチェック欄がついています。チェック欄を活用して、できた問題・できなかった問題を把握し、効率的に復習をおこなうことができます。

Step3

語呂合わせで覚える「らくらくコーナー」で学習をサポートします。

Step2

「補充・復習」には、知識を充実させるための、追加の関連問題を掲載しています。

ご採用特典として

①簡単な操作で小テストが作成できる「小テスト作成用データ」(Excel)
※問題文のシャッフルや、解答の表示/非表示も可能です。写真・地図・図版問題は収録しておりません。

②解答あり&解答なしの書籍紙面データ(PDF)

③タブレット等への配信と、解答の集計が可能な「Google Forms版解答欄」
※ご利用に際してGoogleアカウントの取得が必要です。

Excel PDF Google Forms

小テスト作成用データ ご紹介動画▶

年間指導計画・評価規準例 (※3単位、年間105時間)



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

使用教科書・副教材

教科書：『詳説日本史』
副教材：『詳説日本史ノート』
『詳説日本史授業用整理ノート』
『詳説日本史図録』

節	章	節	配当時間		学習内容とねらい
			月	授業時間	
第1部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	4月	1 2	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。
		2 農耕社会の成立		3 4	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と 原始・古代の展望	①古代社会と海外との交流		5	①中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権(倭国)と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代の対外交流がヤマト政権や律令国家の展開に向かってどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。
		②木簡から古代国家を探る		6	①遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。 ②古代の中央・地方をめぐる物流や地方における文字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。
	第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開	5月	7 8	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。
		2 飛鳥の朝廷		9 10	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。
	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道		11 12	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。
		2 平城京の時代		13 14	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多面的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。
		3 律令国家の文化	15	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	
		4 律令国家の変容	16	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	
	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	6月	17	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。
		2 国風文化		18	①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。
3 地方政治の展開と武士		19 20		①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	
第2部 中世	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり	3	21	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。
		2 院政と平氏政権		22 23	①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と 中世の展望	絵画から中世社会を探る	2	24 25	①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。
		第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立	6	26
	2 武士の社会		27 28		①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の規準		
知識・技能 【評価の方法】 定期考査/提出課題/発問評価	思考・判断・表現 【評価の方法】 定期考査/提出課題/発問評価/発表・レポート提出	主体的に学習に取り組む態度 【評価の方法】 提出課題/授業態度/発表・レポート提出
日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。	黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。
水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。	日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。
中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	中国の歴史書の特色を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。
木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。
国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。	中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。
推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。	仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。
平城京における政治動向としての奈良時代を、律令体制の状況を多面的・多面的にとらえて考察する。	文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と聖徳太子私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。	隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。
①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。	東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。
①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。	奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。
①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。	大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。	平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。
①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。	国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。	武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。
①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通じて、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。
①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。	中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。
①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。	鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。
①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。	公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じて武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。

指導者用デジタル教科書(教材) 学習者用デジタル教科書

日探705準拠 日探706準拠

- デジタル教科書は「指導者用」「学習者用」とともに **[インストール版]** **[クラウド版]** をご用意しています。



※画像は『詳説日本史』のサンプルです。

サンプル版は
こちら！



※サンプルは『詳説世界史』より抜粋

★ご注文の前にご確認ください★

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は、それぞれ別の商品のため、混同されないようご注意ください。

- 「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書の電子書籍版に教材アプリの機能がついた商品です。

- 「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は紙面PDFや図版データ、スライド、準拠テスト例などが収録されたコンテンツ集です。

→p.28 →p.58

教師用指導書 授業実践編付属データ集DVD-ROM

教科書紙面PDF

教科書図版データ
JPEG

教科書テキストデータ
Word

指導書紙面PDF

授業用スライド
PowerPoint

準拠テスト例
Word

評価規準例
Excel

「指導者用デジタル教科書(教材)」と 「学習者用デジタル教科書」の違い

- ビューアの基本機能(ズーム表示や書き込み等)は「指導者用」「学習者用」共通です。
- 「指導者用」には、授業に便利な独自のアプリ機能がつきます。

「指導者用デジタル教科書(教材)」 「学習者用デジタル教科書」 共通機能

	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。		道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
	ペンマーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。		記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
	図形スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。		表示設定	全画面表示への切替えや、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す/やり直す」操作ができます。		ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の2次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

「指導者用デジタル教科書(教材)」 独自機能

●地図・グラフアプリ

アプリアイコン がついている地図・グラフは、凡例(領域・矢印など)やデータ系列ごとに表示/非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。



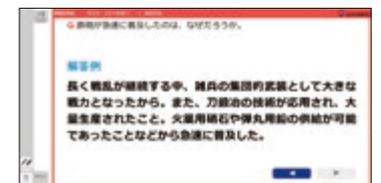
●めくり紙アプリ

図版の特定の文字を隠す「めくり紙」が設定されているアプリです。めくり紙の部分をクリック/タッチすると隠れている文字が表示されます。「全表示」ボタンで、すべてのめくり紙を同時に外すことができます。



●Q&Aアプリ

デジタル紙面の発問の部分をクリック/タッチすることで、問いかけに対する解答例のスライドを表示することができます。(問いかけのスライド・解答例のスライドをボタンで切り替えることが可能です)



指導者用デジタル教科書(教材) / 学習者用デジタル教科書

「インストール版」と「クラウド版」の違い

- 「インストール版」はDVDを納品します。各端末にインストールしてご利用ください。
※リンク先のサイトに遷移する際は、オンライン環境が必要となります。
- 「クラウド版」は各端末のブラウザでクラウドサーバーにアクセスしてオンライン環境にてご利用ください。

【インストール版】

【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

- (インストール方法①) 各利用端末に直接インストールしてご利用ください。
※端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみの対応となります。
- (インストール方法②) DVD-ROMに収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用端末からアクセスしてご利用ください。 ※ファイルサーバーは動作保障環境の対象外です。

【クラウド版】

【校内フリーライセンス】

- 小社からライセンス証・学校管理者向けスタートガイドをお送りします。スタートガイドに沿って初期設定の作業をしていただくことで、完了後、ライセンス証記載のご利用開始日よりご利用いただけます。
- オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。

指導者用 / 学習者用 デジタル教科書 商品概要

	指導者用デジタル教科書(教材)	学習者用デジタル教科書
税込み価格 (本体価格) ※インストール版、 クラウド版共通	①教師用指導書授業実践編 付属データ集DVD-ROM付 1冊 ②教師用指導書研究編 1冊 ③指導者用デジタル教科書 3点セット価格 定価55,000円(10%税込) (本体50,000円)	1人につき 定価1,100円(10%税込) (本体1,000円)
インストール版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
クラウド版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
ライセンス形態	学校内フリーライセンス ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末 動作環境	動作保証環境 ●iPad OS [®] ブラウザ: Safari ●Chrome OS [®] ブラウザ: Google Chrome ●Windows 10/11 ブラウザ: Microsoft Edge・Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版(DVD版)の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。

※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

約13,000点の地歴コンテンツが定額制で使い放題!

Webの **社 会 科 準 備 室**

山川&二宮ICTライブラリ

山川&二宮ICTライブラリは、地理・歴史の教育コンテンツを定額制でご利用できるWebサービスです。

図表
年表

地図

グラフ
統計



スライド

動画

プリント

●簡単検索!

フリーワード検索はもちろん、科目・時代・分野・地域やコンテンツの種類にチェックを入れるだけで簡単に検索・絞り込みができます。また、2022年5月より〈書籍別検索〉機能を追加。関連するコンテンツのリンク機能も充実し、さらに便利になります。

●コンテンツ解説文

画像や動画には解説文がついています。生徒の興味や関心を引き出すための導入や、プリント作成時の参考文献として活用できます。

●マルチデバイス対応

ひとつのアカウントで、パソコン・タブレット・スマートフォンなど様々なデバイスからご利用になれます。

ご利用中の先生の声

これまで190校を超える学校様にご採用いただきました!

- ・Google動画や自然地理アニメなど活用しています。(東京都私立高校)
- ・指導書を個別に購入するよりもコストパフォーマンスがよく、価格相応と感じます。(静岡県公立高校)
- ・授業準備の時間が短縮されました。マルチデバイスは便利です。(東京都私立高校)
- ・コンテンツがクラウドにあるので、ROMからダウンロード等の手間がなく、大変効率的です。(大阪府私立高校)

まずは無料トライアルを!

法人向け定額制コースをご検討の学校様には、ほぼすべてのコンテンツを2週間お使いいただける〈無料トライアルパック〉をご用意しています。詳しくはこちらのサービスサイトをご覧ください。▼

料金プラン

法人向け定額制コース **77,000**円/年(税込)

- ・地理歴史・公民科にご在籍の先生でしたら何名様でもご利用できます。
- ・同一敷地内の中高一貫校様は、中学校・高等学校ともご利用になれます。

個人向け定額制コース **1,320**円/月(税込)

- ・クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。
- ・領収書の発行も可能です。

サービスのお申し込み/
詳しいご説明はこちらから

<https://ywl.jp/service>



ICTライブラリ サービスサイト 検索

日本史探究 著作者一覧

(2023年3月現在・五十音順)



詳説日本史 日探705

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

- ★各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。
- ★探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。
- ★時代の特色をつかむ多様な問いかけ。



高校日本史 日探706

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

- ★要点をおさえた、わかりやすい教科書。
- ★興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

會田 康範 (あいだやすのり)

学習院高等科教諭

日本史教育

- 詳説日本史
- 高校日本史



大津 透 (おおつとおる)

東京大学教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



桜井 英治 (さくらいえいじ)

東京大学教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 中学歴史



老川 慶喜 (おいかわよしのぶ)

立教大学名誉教授

日本近代・現代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



五味 文彦 (ごみふみひこ)

東京大学名誉教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



佐藤 信 (さとうまこと)

東京大学名誉教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



大熊 俊之 (おおくまとしゆき)

埼玉県立不動岡高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



早乙女 雅博 (さおとめまさひろ)

東京大学名誉教授

考古学

- 詳説日本史
- 高校日本史



設楽 博己 (したらひろみ)

東京大学名誉教授

考古学

- 詳説日本史
- 高校日本史



太田尾 智之 (おおたおともゆき)

東京都立国立高等学校教諭

日本史教育

- 詳説日本史



坂上 康俊 (さかうえやすとし)

九州大学名誉教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



鈴木 淳 (すずきじゆん)

東京大学教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



高埜 利彦 (たかのとしひこ)

学習院大学名誉教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



沼尻 晃伸 (ぬまじりあきのぶ)

立教大学教授

日本近代・現代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



村 和明 (むらかずあき)

東京大学准教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



高橋 典幸 (たかはしのりゆき)

東京大学教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



野崎 雅秀 (のぞきまさひで)

東京大学教育学部附属中等教育学校教諭

日本史教育

- 詳説日本史
- 歴史総合707



山口 輝臣 (やまぐちてるおみ)

東京大学教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



多田 万里子 (ただまりこ)

埼玉県立熊谷西高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



牧原 成征 (まきはらしげゆき)

東京大学教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



湯川 文彦 (ゆかわふみひこ)

お茶の水女子大学准教授

日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



豊田 基裕 (とよだもとひろ)

東京都立大江戸高等学校教諭

日本史教育

- 高校日本史



三枝 暁子 (みえだあきこ)

東京大学准教授

日本中世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



吉田 伸之 (よしだのぶゆき)

東京大学名誉教授

日本近世史

- 詳説日本史
- 高校日本史



中家 健 (なかいえたけし)

東京都立小石川中等教育学校教諭

日本史教育

- 詳説日本史
- 歴史総合707



三谷 芳幸 (みたによしゆき)

筑波大学准教授

日本古代史

- 詳説日本史
- 高校日本史



渡邊 宏明 (わたなべひろあき)

海城中学高等学校教諭

日本史教育、日本近代史

- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合709
- 中学歴史



山川出版社ホームページ 収録データ 一覧

下記データは小社ホームページにアクセスしてご覧ください。

Topic!

● 観点別評価集計表 Excel

観点別評価の集計に便利なExcelファイルをご用意しました。
学校の先生が実際に使用しているシートです。
ホームページよりダウンロードしてご活用ください！



● 日本史探究教科書の紹介ページ

- ・教科書の特徴紹介
- ・教科書ダイジェスト版 PDF
- ・内容解説資料 PDF
- ・年間指導計画作成資料 Excel
- ・教科書紹介動画



● デジタル教科書

- ・商品概要
- ・サンプル版



● 教科書の訂正内容のお知らせ



● 山川&二宮ICTライブラリ サービスサイト



日本史探究の授業展開案は『歴史PRESS』の特集号もご参照ください！

『日本史探究・世界史探究』特集号

- ・歴史PRESS No.7 新課程教科書 授業展開案 など
- ・歴史PRESS No.8 新課程教科書 授業展開案 など

こちらから
ご覧ください



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>